久米島の小動物

佐藤　文保

自然の概況

久米島は、沖縄島（那覇）より西北西方向におよそ100km離れた島で水深200m線で沖縄島と連なる島である。高島、低島混在帯に属し、309.5mの宇江城岳、287mのアーラ岳を中心とする新第三紀系の火山性起源の地層や真謝や阿嘉周辺の島尻層、さらに空港から北原、大原を経て五枝松近くまで広がる琉球石灰岩の地層が見られる。植生も地層にほぼ対応し石灰岩地の植生と非石灰岩地の植生に二大別され、海岸には海浜植生も見られ、儀間川河口には、マングローブ林が発達している（図１）。

しかし、石灰岩地域の大部分は土地改良事業によって畑地となり、森はほとんど残されていない。非石灰岩地の火山性起源の地層や島尻層でも畑地化が進み、宇江城岳やアーラ岳周辺でまとまったイタジイ林が見られるだけである。他は、リュウキュウマツ林に変わっており、徐々に遷移は進んでいるものの、下草刈りや低木等の間伐も激しく林床は乾燥し、イタジイ林も含めて人為的影響は大きいと思われる。

河川（図２）は、白瀬川（長さ5.3km，流域面積7.0km²）、銭田川（長さ4.7km、流域面積8.0km²）、儀間川(長さ4.2km、流域面積6.5km²)、浦地川、スハラ川などの小河川が多く、沖縄島の比謝川（長さ13.4km、流域面積50.2km²）よりはるかに規模が小さく、奥間川（長さ5.2km、流域面積6.6km²）や牧港川（長さ5.3km，流域面積7.3km²）にほぼ匹敵する大きさである。これらの河川は、不透水性基盤となっている非石灰岩地の地層に発達しており、石灰岩地には河川の発達は見られない。そのため、非石灰岩地と石灰岩地との境で表流水の消失する場所も見られる。上記代表的河川のすべてに、ダムや堰（池となっている）がつくられ、ダムは、貯水池の水量変動が激しく水辺植物は単純である。池には、ダンチク、セイコノヨシ、ヒメガマ、パラグラス、タイワンアシカキ、タヌキアヤメ、チゴザサなどの湿地性植物、イヌクログワイ、ミズオオバコ、コナギ、ホッスモなどの水生植物などの群落の発達が見られる。

また、近年の土地改良事業や道路工事等による河川への赤土や土砂の流入は激しく、ダムや池、あるいは、河川下流域や干潟はその影響を強く受けつつある。

調査方法

調査は、次のように５回おこなった。(1994年３月28日～31日、７月12日～15日、９月23日～25日、11月４日～８日、12月28日～31日)。採集用具が多く車を搬入したため、前後の

図１　久米島の自然の概況

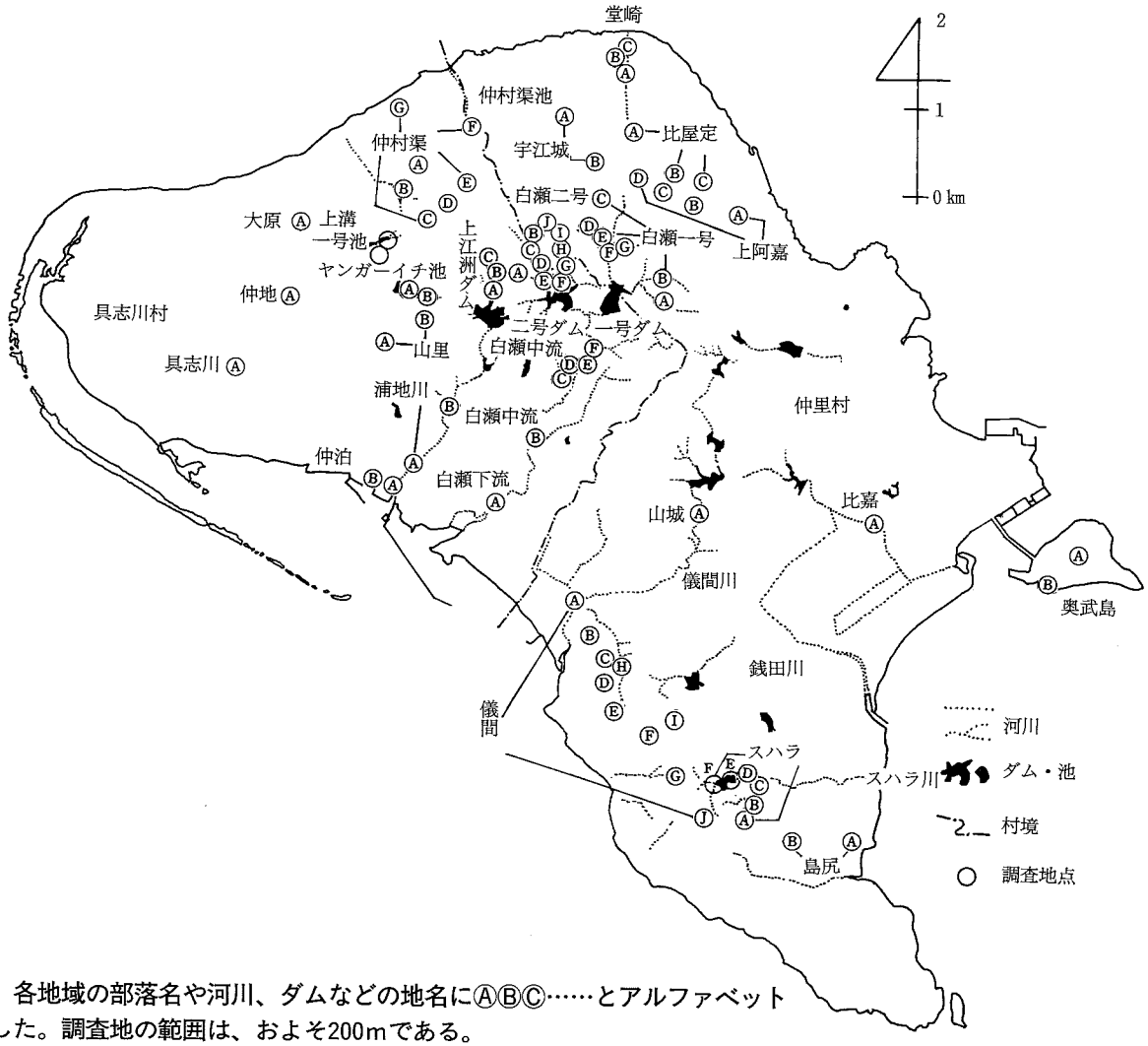


図２　調査地の位置

調査地点名は、各地域の部落名や河川、ダムなどの地名にⒶⒷⒸ……とアルファベットを付けて区別した。調査地の範囲は、およそ200mである。

2日間は、移動のために費やされた。

調査は、島内80ヶ所を各河川、道路、草地、森など定められた範囲を隈無く歩き、出現する動植物を野帳に記入して行った。必要な範囲でビーティング（たたき網）やスィーピング（捕虫網ですくう）も行い、水辺では、たも網（0.15㎜）やネット（定量採集用）も用いた。夜間、懐中電灯を利用しての調査やブラックライト(40w、1本)、蛍光灯(40w、1本）を利用して夜間採集も行った。天然記念物や鳥類、ホ乳類以外の全ての出現種についての最小限の標本、あるいは定量採集時の標本、同定等のために必要な標本を保持するよう努めた。

今回は、これらの調査をもとに、種についての分布表を作成した(表1～表23)。表に記されている種および亜種についての詳細なデータは、後日、琉球の昆虫等に掲載する予定である。

尚、1995年4月29日～5月3日までの調査の記録も一部含まれている。

久米島の小動物

今回記録された種類数と調査の目的

今回の調査で、鳥類10目21科35種、爬虫類2目9科13種、両生類1目3科6種、魚類5目10科21種、腹足類4目14科18種、甲殻類2目8科29種、多足類1目1科1種、クモ類1目12科46種、昆虫類17目142科505種の計43目220科674種類を記録した。

今回行った久米島総合調査の目的は、1996年の大久米島展に向けての資料集収とデータの集積および久米島の小動物が島のどの様な環境で生息しているかを知るために行った。島は、海によって隔てられているとは言っても、人や物資の移動が容易で、各種の開発も沖縄島と同様に激しく行われている。島の面積が小さいだけに、沖縄島以上に自然環境が変貌しやすく、在来種が激減あるいは全滅したり、新たな移入種の増加によって島の生物相が変化してしまう危険度が高い。これらの島の生物相の変化を追う上でも、現状の把握は必要である。今回は、少ない調査日数ではあるが、数多くの小動物を対象に島の様々な環境の生息の状況を調べた。以下その結果を報告する。

久米島のゴキブリとシロアリ（表1）

久米島のトンボ（表2）

久米島は、水田が見られないために島内に広く分散した池や河川のゆるやかな流れや砂防ダム等にトンボが生息している。草地や湿地、池、ゆるやかな流れの河川などで生活するトンボは、平地および疎林的環境に生息するものを合わせて25種類に達する。久米島で記録のない種類は、飛来種（迷トンボ）の3種（1亜種）と飛来定着種の3種だけである。これらの多くは、今後、久米島にも飛来する可能性も高く、発見の機会さえあれば記録さ

表1　久米島のゴキブリとシロアリ、その生息環境

森のゴキブリとシロアリは、立枯木や朽木、落葉落枝を粉砕し、分解する重要な役割をはたしている自然環境指標種である。

見つかった種類 ＼ 調査地	二次林													自然林				今回確認された生息場所
	石灰岩地林	リュウキュウマツ林			リュウキュウマツ－イタジイ林									イタジイ林				
	大原A	浦地川A	浦地川B	白瀬中流D	白瀬中流F	ヤンガーイチA	上溝一号A	上溝一号B	白瀬二号CDE	白瀬二号HI	白瀬一号E	宇江城B	スハラA	上江洲ダムA	スハラC	スハラE	スハラF	
ゴキブリ目																		
安定した森 リュウキュウクチキゴキブリ								●		●				●		●		イタジイ、リュウキュウマツの倒朽木内
安定した森 マダラゴキブリ			●	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●	●		●	成虫は、枯枝葉内や樹皮下、若虫は河川の転石落葉下
安定した森 オキナワオオモリゴキブリ									●					●				朽木上、枯枝葉内
安定した森 チビゴキブリ															●			落葉下
安定した森 ウルシゴキブリ					●	●		●			●			●			●	樹皮下、析幹のすき間など
安定した森 サツマゴキブリ	●	●					●	●								●		成虫は石灰岩、立朽木等のすき間、樹皮下、若虫は落葉下
林縁 リュウキュウモリゴキブリ									●									枯枝葉内
林縁 アミメヒラタゴキブリ			●			●												枯枝葉内や葉の裏面
畑地 ウスヒラタゴキブリ	●					●	●		●		●	●		●		●		枯枝葉内や葉の裏面
畑地 オガサワラゴキブリ									●								●	落葉下、うろ内の土壌中
シロアリ目																		
林内 カタンシロアリ								●										生木内、倒木
林内 ヤマトシロアリ								●					●			●		倒朽木など
林内 イエシロアリ					●			●	●							●	●	立朽木、朽木など

◎　ミナミヒラタゴキブリが朝比奈（1991）に、ワモンゴキブリ、ヒメチャバネゴキブリが高良・東（1974）にそれぞれリストされている。ダイコクシロアリが高良・東（1974）にリストされている。

◎　ゴキブリは、今回新たに9種類確認した。これまでの記録と合わせると久米島には13種類が生息する。

◎　シロアリは、今回カタンシロアリを確認した。これまでの記録と合わせると計4種類が生息する。

◎　沖縄島には、ゴキブリが22種、シロアリが6種類生息している。久米島にはまだ未確認の種類が多く生息すると思われる。

表2　久米島のトンボと生息環境

見つかった種類　○ 成虫　● ヤゴ

	調査地点	都市	宅地 仲泊A	海岸 奥武島B	開けた畑 大原A白瀬下流A	林道 儀間BCGJ島尻B	土地改良畑 儀間I	林縁の畑 堂崎B	林縁の休耕畑 白瀬一号D	林縁の草地 奥武島A	林縁の山道 宇江城B	畑地の小川 堂崎C	畑地の水路 比嘉A	畑地の小池 島尻A	開けた下流 儀間A	小砂防ダム 山城A	林縁湿地 白瀬一号E	ダム湖岸 上江洲ダムA	ダム湖岸 白瀬二号E	砂防ダム湿地 スハラCD	農水用古池 仲村渠F	農水池湿地 上満一号A	湿地池枝流 ヤンガーイチA	湿地池河川 スハラE	湿地池河川 スハラF	林縁池枝流 仲村渠E	河川中流 浦地川B	河川中流 白瀬中流B	河川支流 儀間HF	河川上流 スハラC	河川中流 白瀬中流DF	河川上流 白瀬二号C	河川上流 ヤンガーイチB	河川上流 スハラB	河川上流 白瀬一号ABスハラA	河川上流 白瀬二号ADGH	河川上流 白瀬二号B
	大区分	不安定な止水域										安定した止水域															安定した流域										
	小区分	半砂漠		草原				林縁				草地					湿地						林縁				林縁・林内					林内					
OPEN 平地 半砂漠的	スナアカネ（飛来）									○																											
	ウミアカトンボ（飛来）※																																				
	ウスバキトンボ（群飛移動）			○	○	○	○		○		○			◉			○	○	○	○	○		○			○	○	○	○								
草原的	ハラボソトンボ							○						◉	●	◉					○	○	○	●													
	ショウジョウトンボ						○	○						◉		●				●	◉	◉		◉													
	アオモンイトトンボ												◉	◉	●	○		○	●	●	◉	○	◉	●													
	コフキヒメイトトンボ												●	●	●						○	○		○	●			○									
	ベニトンボ（飛来定着）														●			○	◉	◉	○	○	○	◉				●				○					
	オオヤマトンボ（飛来定着）																					○															
(水田的)	シオカラトンボ※																																				
	ギンヤンマ（群飛移動）		○						○	○	○		●	◉	●		○			●	◉	○	◉	●	●	○	○	○									
	ヒメトンボ											○																									
	タイワンウチワヤンマ								○						●	●	○				○	○	○	◉				●									
	オオギンヤンマ（移動）												●		●						◉	○		●	●												
	アジアイトトンボ（飛来）		○																									○									
湿原的	ヒメイトトンボ																				○	○	○														
	コシブトトンボ																							○													
	ムスジイトトンボ												○											○													
	トビイロヤンマ※																																				
	ベッコウチョウトンボ										○											○	○	◉					○								
	ハネビロトンボ													●						●	○	○	○	◉	●				○								
疎林的	リュウキュウギンヤンマ													●		●			◉	●	◉	○	◉	◉	●												
	リュウキュウベニイトトンボ																○		●	○		●	◉	◉	●			◉									
	アカナガイトトンボ（河川）														●	●			●	●				●		●	●	◉		●	●						
	アメイロトンボ※																																				
林縁的	オオメトンボ															○						○	○			○		○									
	リュウキュウカトリヤンマ																																○	●			
森、河川（林内）	リュウキュウルリモントンボ																						○	●	●	○	○		○	◉	●	◉	○	●	●	●	◉

久米島で記録のない種類
飛来種（迷トンボ、草原的）
　タイリクアキアカネ
　オナガアカネ
　ヒメハネビロトンボ
（コモンヒメハネビロトンボ）

飛来定着種（1970年代後半）
　アオビタイトンボ（湿原）
　オオキイロトンボ（ダム）

飛来定着種（大昔）
　コフキトンボ

林縁（疎林）の湿地
　ホソミシオカラトンボ

林縁の池、湿地、遊水池
　オオシオカラトンボ
　オオハラビロトンボ
　リュウキュウトンボ
　ヤブヤンマ
　カトリヤンマ

河川（流水性）
　リュウキュウハグロトンボ
　リュウキュウトゲオトンボ
　オキナワサナエ
　オキナワオジロサナエ
　オキナワコヤマトンボ
　オニヤンマ
　オキナワミナミヤンマ
　カラスヤンマ
　オキナワサラサヤンマ

※　ウミアカトンボ、シオカシトンボは小浜（1978）が記録している。トビイロヤンマ、アメイロトンボは、沖縄県のトンボ<安里進トンボコレクション寄贈目録>（1985）に記録が出されている。

◎　リュウキュウルリモントンボは他の島々のものとは違って、体長が大きく、♂の尾部付属器や♀の後背片が異なっているように思え（安里、1985）、他にも未成熟時に沖縄島のものは、胸部は黄色で、翅胸前面の長い二条の筋が赤褐色であるのに対し、久米島のものはその筋が帯状となり、側面まで赤褐色味が強い。

◎　1995年5月1日に久米島で記録のなかったコフキトンボが見つかった。久米島のトンボは29種類となった。詳細な報告は次の機会におこなう。

表3　久米島の直翅類、ナナフシ、カマキリ、ハサミムシ

見つかった種類 ＼ 調査地	宅地	周辺が農地 畑地、草地、農道							周辺が森、林道、農道ぞい 畑地、草地、湿地											林縁－林冠－林間（ギャップ）、マントーソデ群落													林内 林床、川ぞい、樹幹										
	仲泊A	白瀬下流A	大原A	山城A	島尻A	堂崎B	浦地川A	仲村渠F	白瀬中流B	上阿嘉ABCD	浦地川B	宇江城B	儀間IF	白瀬中流B	白瀬中流C	白瀬一号AC	白瀬一号DE	島尻B	白瀬二号A	白瀬二号EIJ	中村渠GF	スハラACE	上江洲ダムAB	上溝一号AB	ヤンガーイチA	大原A	スハラABCDE	山城A	堂崎A	儀間GHF	宇江城B	山里B	白瀬下流A	白瀬中流BCD	仲村渠AEG	浦地川AB	上溝一号A	ヤンガーイチAB	上江洲ダムABC	白瀬一号DEF	白瀬二号ABCD	上溝一号B	ヤンガーイチAB	白瀬二号ADEJ	白瀬一号DEFG	白瀬中流BCD	上江洲ダムABC	スハラCE	堂崎A	仲村渠E	浦地川B	山里B	儀間H
直翅類																																																					
コオロギ科																																																					
イエコオロギ	○																																																				
リュウキュウオカメコオロギ				○			○				○		○	○	○		○		○				○					○						○		○			○	○												
タイワンエンマコオロギ													○			○					○	○																														
リュウキュウシバスズ													○			○						○																														
マツムシ					○					○	○			○				○	○			○																														
クサヒバリ																								○																													
ネッタイヤチスズ																								○																													
クロヒバリモドキ																								○																													
カネタタキ																											○	○	○		○	○		○	○	○	○	○		○	○		○		○	○	○		○					
ウスグロカネタタキ																												○						○							○		○		○	○		○					
マダラコオロギ																											○	○	○	○	○		○	○	○	○		○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○		○
リュウキュウツツレサセコオロギ																													○					○		○										○							
クマスズムシ																																													○	○							
アシマダラマツムシ																																													○	○	○	○	○	○			
ネッタイクチキコオロギ																																	○	○	○	○	○	○	○													○	
カマドウマ科																																																						
クメカマドウマ																																													○	○			○				
オキナワカマドウマ																																														○							
ヒシバッタ科																																																						
ヒラタヒシバッタ																																																○						
ヒメヒシバッタ														○							○			○																													
ミナミハネナガヒシバッタ								○						○							○		○		○																												
ホソハネナガヒシバッタ								○						○																																								
オンブバッタ科																																																						
アカハネオンブバッタ				○				○	○		○			○							○			○																														
オンブバッタ																	○																							○														
バッタ科																																																						
ショウリョウバッタ		○	○	○				○	○		○	○	○	○		○	○				○		○		○																												
アカアシバッタ		○	○	○				○	○				○	○			○	○			○		○		○	○																											
クルマバッタ		○	○					○	○				○	○				○								○																												

マダラバッタ		○				○					○	○				○				○			○																													
トノサマバッタ		○																																																		
ショウリョウバッタモドキ												○									○					○			○																							
イナゴ科																																																				
セグロイナゴ		○									○									○			○	○																												
タイワンツチイナゴ	○				○						○	○								○			○																													
タイワンハネナガイナゴ	○						○				○	○							○		○	○																														
ハネナガイナゴ																			○																																	
オキナワモリバッタ																										○			○	○					○		○	○	○	○		○	○	○		○	○			○		○
コロギス科																																																				
ニセヒノマルコロギス																															○																					
コバネコロギス																														○					○			○														
ハネナシコロギス																																	○						○						○							
キリギリス科																																																				
ナカオレツユムシ																																					○															
ヒメクダマキモドキ																													○		○			○			○	○														
ダイトウクダマキモドキ																										○				○																						
タイワンクツワムシ				○						○		○		○							○	○				○		○	○				○		○			○	○					○	○	○	○	○		○		
タイワンウマオイ										○						○							○	○							○				○	○	○	○				○		○						○	○	
アシグロウマオイ										○			○		○	○				○			○										○	○	○	○		○														
クビキリギス															○	○			○	○		○																														
オガサワラクビキリギス												○								○																																
ホシササキリ	○					○						○				○			○		○																															
コバネササキリ									○																																											
ケラ科																																																				
ケラ																○								○																												
ノミバッタ科																																																				
ノミバッタ																			○				○																													
カマキリ目																																																				
チョウセンカマキリ										○																									○																	
ハラビロカマキリ																									○							○										○										
ヒナカマキリ																																					○															
ナナフシ目																																																				
コブナナフシ																																					○	○				○		○								
リュウキュウトビナナフシ																										○							○		○																	
オキナワナナフシ		○							○											○	○				○	○									○					○												
メススジエダナナフシ（フチミドリ型）																					○					○																										
ハサミムシ目																																																				
ネッタイスジハサミムシ										○						○																																				

◎ 直翅類は、高良・東（1974）は18種類（クルマバッタモドキのように県内には生息しない種名も含まれている）、琉球列島の鳴く虫たち（鳴き虫会）には17種類の記録を上げている。今回、直翅類は49種類、ナナフシは４種類カマキリは３種類、ハサミムシは１種類採集。

◎ クメカマドウマが、鍾乳洞内だけでなく広く森林内の生息することがわかった。また、オキナワモリバッタの雌は、沖縄島のものよりもはるかに大きい。

表4　久米島の半翅目（異翅亜目）

森の周辺	←畑地・草地優占						森林環境優占→						
	畑地・草地			放キ畑	林道、農道芝地、草地		荒地・湿地					林間(ギャップ)	
調査地 / 見つかった種類	儀間川A	浦地川A	大原A	儀間I	山里B	スハラC	仲村渠F	ヤンガーイチA	上江洲ダムA	白瀬一号E	白瀬二号E	白瀬二号BCD	白瀬中流F	上江洲ダムC
ツチカメムシ科														
ツチカメムシ										○				
ミナミマルツチカメムシ					○									
ヒメツチカメムシ										○				
マルカメムシ科														
タイワンマルカメムシ			○											
カメムシ科														
チャバネアオカメムシ					○					○				
マルシラホシカメムシ				○		○				○				
シラホシカメムシ		○	○	○		○								
ウシカメムシ			○											
ツノカメムシ科														
アオモンツノカメムシ						○								
ミナミツノカメムシ					○									
ヘリカメムシ科														
クモヘリカメムシ		○	○	○					○	○	○	○	○	
ホソハリカメムシ			○	○		○				○				
ホウズキカメムシ			○											○
ホソヘリカメムシ			○											
シロヘリクチブトカメムシ				○										
ナガカメムシ科														
オオシロヘリナガカメムシ						○								
オオモンシロナガカメムシ					○									
モンクロナガカメムシ					○									
コマダラナガカメムシ			○		○						○			
クロスジヒゲナガカメムシ					○					○				
ルイスナガカメムシ					○									
ヨツボシヒョウタンナガカメムシ		○		○						○	○			
カンシャコバネナガカメムシ			○											
アカアシホソナガカメムシ	○													
ウスチャヒョウタンナガカメムシ				○										
オキナワシロヘリナガカメムシ								○						
ミナミヒゲナガカメムシ								○						
ヒョウタンナガカメムシの一種								○						
オオホシカメムシ科														
オオホシカメムシ					○					○				
ヒメホシカメムシ					○			○		○				
マキバサシガメ科														
アシブトマキバサシガメの一種					○									
ネッタイマキバサシガメ				○		○								
サシガメ科														
トビイロサシガメ										○				
ウスイロトゲサシガメ							○							
ヒメトビサシガメ							○							
キベリヒゲナガサシガメ						○					○			
サシガメ科の一種						○								
メクラカメムシ科														
アカホシメクラガメ		○		○		○								
ウスモンミドリメクラガメ		○		○		○								
メクラガメ科の一種			○											

◎　水生カメムシ類は除いた。
◎　高良・東（1974）には25種のリストが載せられている。

表5　久米島の半翅目（同翅亜目）

見つかった種類 ＼ 調査地	草地畑地		放キ畑	林道・草地			荒地・湿地			石灰岩地林	リュウキュウマツ疎林						リュウキュウマツ林（イタジイを含む）							イタジイ－リュウキュウマツ林							イタジイ林（リュウキュウマツを含む）					
	浦地川A	大原A	儀間I	宇江城B	山里B	スハラC	上溝一号A	上江洲ダムA	スハラE	白瀬一号E	大原A	仲村渠G	上阿嘉ABC	儀間B	島尻A	奥武島A	白瀬下流A	上阿嘉D	島尻B	儀間CDE	浦添川A	浦地中流B	仲村渠AF	白瀬中流C	白瀬二号A	比屋定BC	儀間F	宇江城B	仲村渠CDE	上江洲ダムABC	スハラA	ヤンガーイチA	上溝一号A	白瀬二号CDE	儀間GHIJ	ヤンガーイチB	上溝一号B	スハラCDE	白瀬一号CDE
セミ科																																							
クマゼミ											○			○						○		○	○				○								○			○	○
クロイワニイニイ												○	○	○				○		○			○			○	○					○	○		○		○	○	○
クロイワツクツク											○			○	○	○	○		○	○		○	○				○	○	○			○	○		○		○	○	○
リュウキュウアブラゼミ												○		○						○		○	○				○	○			○				○				○
オオシマゼミ																				○		○	○				○	○	○			○	○		○	○	○	○	○
オキナワヒメハルゼミ																			○	○		○		○	○		○			○	○			○	○			○	○
クロイワゼミ																							○			○	○	○	○			○	○		○	○	○	○	○
ツノゼミ科																																							○
マルツノゼミ																																						○	
ミミズク科																																							
ヒラタミミズク																									○										○				○
ビワハゴロモ科																																							
タイワンウチワウンカ																												○											
オオヨコバイ科																																							
シロオオヨコバイ						○		○																															
ホソサジヨコバイ科																																							
クロスジホソサジヨコバイ						○																																	
アワフキムシ科																																							
アワフキムシ科の一種										○																													
ウンカ科																																							
シダスケバモドキ											○										○																		
クロフツノウンカ						○			○																														
アオバハゴロモ科																																							
アオバハゴロモ							○																																
マルウンカ科																																							
オキナワマルウンカ				○																													○						
オサヨコバイ科																																							
オサヨコバイ					○																																		
テングスケバ科																																							○
オキナワテングスケバ		○			○																																		
ハゴロモ科																																							
フタホシハゴロモ	○	○	○																																				

◎　高良・東（1974）には、69種のリストが載せられている。

れると思われる（その後、未記録の飛来定着種である、コフキトンボが見つかった）。

森の林縁の池や湿地を主な生活の場とするトンボは2種類だけであった。沖縄島に生息する6種類は、久米島では確認できなかった。また森の河川で生活するトンボも1種類だけであり、沖縄島の流水性トンボ9種類は見つけることができなかった。しかし、久米島にはこれらのトンボ類の生息できる環境は、少なからずあり、15種類もの森の周辺の池や湿地、川のトンボが欠けることは、平地および疎林的環境のトンボの多くが久米島に分布していることと合わせて非常に興味深い。

これまで久米島には、26種のトンボが記録されていたが、今回新たに3種類が加わった。ひとつは、県内2個体目の9月24日採集のスナアカネの♀。「スナアカネは、アフガニスタン、インドから中央アジア、小アジアをへてアフリカおよびヨーロッパにかけて広く分布しており、中国でも採集されている。わが国では1977年10月16日に沖縄県の宮古島で、1♂が採集されただけで(小浜、1978)、大陸からの飛来種と考えられている。インドでは年中みられるといい、ヨーロッパでは長距離移動をすることが知られている。」（日本産トンボ幼虫・成虫検索図説、および沖縄のトンボによる）もうひとつは、9月23日採集のアジアイトトンボ2♀。「県内では、沖縄島、石垣島、西表島で春期と秋期に採集されている。1960年代には比較的多数の記録があるが、1970年代以降は、ごく少数しか記録がない。」(沖縄のトンボによる)。この2種類とも、ミーニンおよび台風の大まわりの風によってもたらされたのではないかと考えられる。さらに、1種（コフキトンボ）が加わり、29種となった。

久米島の直翅類、ナナフシ、カマキリ、ハサミムシ（表3）

久米島の半翅類（表4、5）

異翅亜目は41種類、同翅亜目は、20種類記録した。セミ類は、7種類記録し(表5)、クマゼミ、クロイワニイニイ、クロイワツクツク、リュウキュウアブラゼミは分布が広く、オオシマゼミは、リュウキュウマツ林からイタジイ林に生息し、オキナワヒメハルゼミは、イタジイの優占する森に多く、クロイワゼミは、イタジイ林の最も安定した森の樹冠に生息している。

久米島の水生カメムシ・水生甲虫①②（表6、7）

水生カメムシを12種類、水生甲虫を31種類記録した。水生カメムシでは、アマミアメンボが開けた止水域やゆるやかな流れに、コセアカアメンボが林縁から林内の止水域やゆるやかな流れに生息し、両者はすみ分けている。トンボ同様沖縄島の林内河川に生息するタイワンシマアメンボや林縁の池に生息するオキナワマツモムシは確認できなかった。1979年8月19日採集のアシブトメミズムシ（県立博物館収蔵）は、久米島の儀間（海岸）産である。ヒメミズカマキリは水辺植物の豊かな池に生息している。

表6　久米島の水生カメムシ、水生甲虫①

調査地点	開けた水域					やや開けた水域					開けた水域					一部開けた水域				林内を流れる河川								
	ため池 ダム湖 湿地					小さな池 砂防ダム 草地					下流（止水的） ゆるやかな流れ					中流 A a 型				上流（源流） Aa型、Aa－Aao型							
見つかった種類	上江洲ダムA	ヤンガーイチA	上溝一号池A	仲村渠F	スハラEF	島尻A	山城A	スハラC	スハラD	儀間I	白瀬二号B	白瀬下流A	儀間A	比嘉A	浦地川A	堂崎C	山城A（やや止水）	浦地川B	白瀬中流B	白瀬中流D	白瀬中流F	スハラAB	スハラCD	スハラF	堂崎A	上江洲ダムA	白瀬一号AB	白瀬一号E	白瀬二号BC	白瀬二号DE	白瀬二号GHI
止水性　水生カメムシ																															
ミズカメムシ科																															
ミズカメムシ						●	●	●					●					●													
ミズカメムシの一種						●																									
イトアメンボ科																															
ヒメイトアメンボ					●																										
アメンボ科																															
アマミアメンボ	●	●	●	●	●		●	●	●		●	●	●	●		●			●												
（濡やたまり）コセアカアメンボ																				●		●	●	●			●	●	●	●	●
止水性　セスジアメンボ							●																								
ヒメセスジアメンボ					●		●	●											●												
タイコウチ科																															
ヒメミズカマキリ		●		●		●																									
マツモムシ科																															
オキナワコマツモムシ					●	●	●																								
クロイワコマツモムシ		●		●	●	●	●	●		●			●						●												
ミズムシ科																															
コミズムシ					●	●																●									
チビミズムシの一種														●																	
水生甲虫①																															
ガムシ科																															
ヒメガムシ	●	●	●	●		●	●							●														●	（夜間ライトトラップ）		
ミナミヒメガムシ			●	●																											
チビヒラタガムシ	●		●				●																								
セマルガムシ			●				●																								
アカヒラタガムシ						●																									
チビマルガムシ	●						●						●		●																
コクロヒラタガムシ													●																		
ミズスマシ科																													（夜間ライトトラップ）		
オオミズスマシ	●	●	●	●	●	●	●	●	●				●	●		●													●	●	●
ヒメミズスマシ		●	●		●	●			●																						

◎　水辺の草地に生息するウスイロトゲサシガメ（サシガメ科）が仲村渠Fで見つかっている。
◎　1995年5月1日にコガタガムシを再確認した。また、マルミズムシ科マルミズムシも採集した。

表7　久米島の水生甲虫②

調査地点	開けた水域					やや開けた水域					開けた水域					一部開けた水域					林内を流れる河川								
	ため池 ダム湖 湿地					小さな池 砂防ダム 草地					下流（止水的） ゆるやかな流れ					中流 A a 型					上流（源流） Aa型、Aa－Aao型							
見つかった種類	上江洲ダムA	ヤンガーイチA	上溝一号池A	仲村渠F	スハラEF	島尻A	山城A	スハラC	スハラD	儀間I	白瀬二号B	白瀬下流A	儀間A	比嘉A	浦地川A	堂崎C	山城A（やや止水）	浦地川B	白瀬中流B	白瀬中流D	白瀬中流F	スハラAB	スハラCD	スハラF	堂崎A	上江洲ダムA	白瀬一号AB	白瀬一号E	白瀬二号BC	白瀬二号DE	白瀬二号GHI
止水性　ゴミムシ科																															
ブロンズクビナガゴミムシ				●				●																							
アトモンミズギワゴミムシ	●																														
コガシラミズムシ科																															
シナコガシラミズムシ						●		●					●																		
コツブゲンゴロウ科																															
ツヤコツブゲンゴロウ		●			●																										
ゲンゴロウ科																															
ウスイロシマゲンゴロウ			●	●	●	●		●	●																						
コガタノゲンゴロウ		●		●		●		●	●																						
トビイロゲンゴロウ		●						●																							
ヒメフチトリゲンゴロウ		●		●	●			●																							
ヒメゲンゴロウ		●			●	●																									
コケシゲンゴロウ		●						●																			●				
コマルケシゲンゴロウ		●																													
タイワンセスジゲンゴロウ		●			●																										
ウスチャツブゲンゴロウ						●																									
サザナミツブゲンゴロウ						●																									
流水性　マルハナノミ科																															
マルハナノミ科の一種					●					●					●		●	●			●						●				
ヒラタドロムシ科																															
オキナワマルヒラタドロムシ																							●						●	●	●
ドロムシ科																															
ムナビロツヤドロムシ															●		●	●		●	●		●		●	●			●	●	
ヒメドロムシ科																															
アカハラアシナガミゾドロムシ																				●					●						
マルナガアシドロムシ																										●					
ナガツヤドロムシ																					●		●			●				●	
ウエノツヤドロムシ																										●					
ホタル科																															
クメジマボタル																		●		●	●		●								

◎　高良・東（1974）には水生カメムシ3種、水生甲虫2種のリストを載せている。
◎　1995年5月には、タマケシゲンゴロウ、チンメルマンセスジゲンゴロウ、リュウキュウセスジゲンゴロウなど多数のゲンゴロウを採集した。詳細は次回に報告する。

水生甲虫では、1979年8月19日採集のコガタガムシ（県立博物館収蔵）をあわせてガムシ類は8種類が生息している。ミズスマシは2種類を記録した。沖縄島河川に生息するオキナワオオミズスマシは確認できなかった。ゲンゴロウの仲間は、13種類を確認。コガタノゲンゴロウ(希少種)、ヒメフチトリゲンゴロウ、トビイロゲンゴロウの3種の大型種が水辺植物の繁茂した池などに生息している。沖縄島のシイ林の源流の池に生息するリュウキュウオオイチモンジシマゲンゴロウは確認できなかった。ドロムシの仲間は、沖縄島に生息する7種類の内5種類までを確認した。クメジマボタルの幼虫は、中流から上流にかけての3河川で見つかった。また、成虫は1995年4月29日～5月2日までの調査で島内の各河川域に広く生息しているのを確認した。

久米島の水生昆虫（カゲロウ、カワゲラ、トビケラ、脈翅目、双翅目（図3、表8）

白瀬川4ヶ所、浦地川3ヶ所、スハラ川2ヶ所、堂崎川1ヶ所の計10ヶ所で調べた。カゲロウは5種類、カワゲラは6種類、トビケラは8種類、脈翅目は2種類、双翅目は3種類確認した。白瀬川が最も水生昆虫が多かった。浦地川は、下流から上流へと確認種類数が増えていった。白瀬川が最も多様性に富み、次いで浦地川上流、スハラ川の順であった。

水生昆虫の中で数の多かった種類は、コタニガワトビケラ属の一種、コガタシマトビケラ属の一種、ナガレアブ科の一種の3種であった。これらは、他の水生昆虫とともに、キクザトサワヘビの有力なエサ資源になると思われる。また、沖縄島の河川で見つかるシロタニガワカゲロウやヒメヒラタカゲロウ属の一種、タイワンモンカゲロウ、オキナワヒゲナガカワトビケラなどの流水性水生昆虫の多くが確認できなかった。

久米島の鱗翅目－蝶－（表9、10）

今回36種類の蝶を記録した。これまでの記録をあわせると久米島には46種類の蝶が記録されたことになる。飛来種を除くと40種類が久米島に生息している。今日、新たに加わった種類はツマムラサキマダラである。沖縄島では、1992年頃より定着した。今年で4年目に入るが、このまま定着するのかどうか興味深い。また、食草のオキナワスズムシソウの群落が、白瀬川源流で見つかったが、コノハチョウは食痕も確認できなかった。

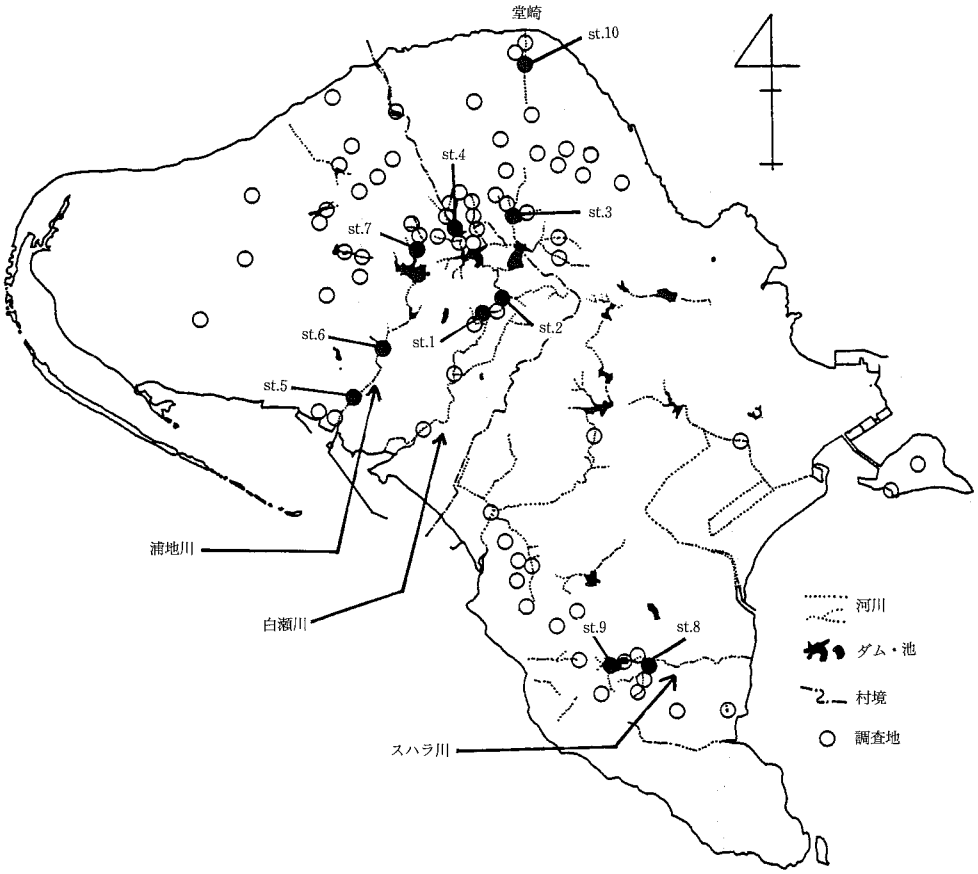
蝶は森林性のものと草原性のものに大きく二大別できる。森林性のものは、疎林への適応力の違いから都市的環境へ進出できるもの、農村的環境へ進出できるものなどの様々な適応段階が認められる。また、草原性のものには、湿性草原を好むもの、乾性草原を好むものなどに分けられる。

久米島の鱗翅目－蛾－（表11）

高良・東（1974）によって86種類報告されている。今回2ヶ所の定点ライトトラップを中心とした調査で、97種類採集することができた。この中には、オキナワルリチラシ、アマミシロテンエダシャク、ヤママユ、クニガミキヨトウ、ヤエナミクチバなどの種類が含

© 1995年5月記録、文化財保護委員会

図３　流水環境に生息する水生昆虫の調査地点の位置
（カゲロウ、カワゲラ、脈翅、トビケラ、双翅）



調査方法
　瀬は50×50cmのコドラート法による定量採集
　淵はたも網による任意採集。

表の調査地点以外での採集記録（調査地点図２を参照）

カゲロウ目	
コカゲロウ属の一種（sp.3）	11．５比嘉Ａ〔採５〕
トゲエラカゲロウ属の一種	７．14スハラＥ〔採１〕９．23白瀬中流Ｂ〔採１〕 11．６白瀬二号Ｂ〔採１〕
ヒメカゲロウ科の一種	３．30白瀬二号Ａ－Ｊ〔採１〕
カワゲラ目	
フタツメカワゲラ属の一種	12．29スハラＦ〔採２〕
ヒロムネカワゲラ属の一種	３．28白瀬一号上流〔採１〕
脈翅目	
クメセンブリ	３．29スハラＥ〔採１♂３♀〕３．30白瀬二号Ｃ－Ｅ〔採集１♀〕
トビケラ目	
コカクツツトビケラ属の一種	３．29スハラＡ－Ｃ〔採１〕Ｅ〔採１〕
双翅目	
ユスリカ科の一種	11．５儀間Ａ〔採３〕11．７山城Ａ〔採１〕

表8　久米島の水生昆虫（カゲロウ、カワゲラ、トビケラ、脈翅目、双翅目）

調査地点st. / 出現種類（すべて幼虫）	白瀬川 1	白瀬川 2	白瀬川 3	白瀬川 4	浦地川 5	浦地川 6	浦地川 7	スハラ川 8	スハラ川 9	堂崎 10	総数	採集法
カゲロウ目												
コカゲロウ属の一種（SP.1）	1	9	1	11			1	1			24	定量
コカゲロウ属の一種（SP.2）	12		1	1			2				16	〃
コカゲロウ属の一種（SP.3）										3	3	〃
トゲエラカゲロウ属の一種	4	7	1	1		7					20	たも網
ヒメカゲロウ科の一種	1			1		1					3	定量
カワゲラ目												
フタツメカワゲラ属の一種									2		2	たも網
フタツメカワゲラモドキ属の一種				1							1	〃
ヒロムネカワゲラ属の一種	1	2		9			1				14	定量
フサオナシカワゲラ属の一種（SP.1）		1	6	1							8	〃
フサオナシカワゲラ属の一種（SP.2）	18	20		19			3	2			62	〃
ホソカワゲラ属の一種		9		2			1		22		34	〃
脈翅目												
ヘビトンボ科の一種	3	5									8	定量
クメセンブリ				1							1	たも網
トビケラ目												
コタニガワトビケラ属の一種	16	35	36	50	15	66	11	8	4	45	286	定量
コガタシマトビケラ属の一種	45	1	14	7	64	58		12		2	203	〃
ウルマーシマトビケラ								2		11	13	〃
ミヤマシマトビケラ属の一種		11	4	2			7		1		25	〃
シマトビケラ属の一種				2			1			1	4	〃
コカクツツトビケラ属の一種	4			1		5				3	13	たも網
グマガトビケラ	4			2			10	7			23	〃
クサツミトビケラ属の一種	1	2				1					4	〃
双翅目												
ユスリカ科の一種（SP.1）		9	2	4	10	3	5	1	8		42	定量
ユスリカ科の一種（SP.2）			2								2	〃
ナガレアブ科の一種	16	28	6	20	2	34		26	5	2	139	〃
各調査地点の確認総種類数	13	13	10	18	4	8	10	8	6	7		

	調査番号	調査日	調査地点	河川形態	周辺環境
白瀬川	st. 1	1994.11. 6	白瀬川中流D	Aa型	リュウキュウマツ－イタジイ林内
	st. 2	1994.12.30	白瀬川中流F	Aa型	イタジイ林内
	st. 3	1994. 9.24	白瀬一号ダムF	Aa型	イタジイ林内
	st. 4	1994.11. 6	白瀬二号ダムD	Aa型	イタジイ林内
浦地川	st. 5	1994.11. 5	浦地川A	Aa－Bb移行型	リュウキュウマツ林、畑地、セイコノヨシーダンチク草地内
	st. 6	1994. 9.23	浦地川B	Aa型	リュウキュウマツ－イタジイ林内
	st. 7	1994.11. 7	上江洲ダムA	Aa型	イタジイ林内
スハラC	st. 8	1994.11. 4	スハラC	Aa型	イタジイ林縁、道路ぞい、アカメガシワ－ススキ草地
	st. 9	1994.12.29	スハラF	Aao型－Aa移行型	イタジイ林内
堂崎	st.10	1994. 9.24	堂崎A	Aa型	リュウキュウマツ林縁、畑地、アカメガシワ－ススキ草地

表9　久米島の鱗翅目（蝶）

	調査地	宅地	周辺が農地 畑地・草地 農道						周辺が森、林道、農道ぞい 畑地、草地、湿地										マント－ソデ群落－林冠－林間（ギャップ）（一部草地、畑地を含む林縁） 疎林的――リュウキュウマツ－イタジイ林――イタジイ林																			林内（樹間） 林床、川ぞい					
	見つかった種類	仲泊A	白瀬下流A	大原A	堂崎B	浦地川A	奥武島A	儀間BCD	儀間EFG	儀間HIJ	宇江城B	上溝一号AB	白瀬中流B	島尻B	白瀬二号B	白瀬二号EIJ	仲村渠GF	スハラACE	白瀬下流A	大原A	奥武島A	仲村渠F	儀間BCD	堂崎AB	白瀬中流B	浦地川AB	白瀬中流CD	宇江城B	上溝一号AB	ヤンガーイチAB	儀間EFG	儀間HIJ	上江洲ダムABC	スハラABCDEF	白瀬二号AJIE	白瀬二号BCD	白瀬一号DEF	白瀬中流C	白瀬中流EF	ヤンガーイチAB	上江洲ダムABC	スハラABCDEF	白瀬二号ADEF
草地・畑地型	チャバネセセリ		○	○	○	○	○					○																															
	ユウレイセセリ						○																																				
	イチモンジセセリ		○	○											○																												
	モンシロチョウ											○																															
	ヒメアカタテハ		○		○	○					○																																
	タテハモドキ								○			○																															
	ツマグロヒョウモン																○																										
	アオタテハモドキ	○																																									
	ヤマトシジミ		○	○		○				○																																	
	ウラナミシジミ		○	○		○																																					
疎林・林縁・林間・林冠型	アカタテハ		○		○		○	○	○	○				○	○			○	○				○	○							○	○		○		○							
	キチョウ			○		○				○		○			○	○		○		○						○			○			○		○	○	○							
	ウスキシロチョウ												○												○																		
	アオスジアゲハ																						○						○	○	○	○			○								
	ナガサキアゲハ																					○	○						○														
	シロオビアゲハ																		○	○			○	○		○		○	○			○											
	ナミエシロチョウ																		○	○			○							○	○				○	○							
	ツマベニチョウ																			○		○				○					○	○		○	○								
	リュウキュウアサギマダラ																				○	○		○					○	○	○		○			○	○	○					
	アマミウラナミシジミ																		○		○		○						○			○		○	○	○							
	イシガケチョウ																											○			○		○	○		○					○	○	○
	オキナワビロウドセセリ																			○						○					○	○				○							
	リュウキュウミスジ																		○	○		○	○							○	○		○	○	○					○	○	○	○
	ルリタテハ																			○								○	○			○											
	イワカワシジミ																																		○								○
	タイワンクロボシシジミ																			○															○								○
	テングチョウ																													○			○		○					○	○		○
	ジャコウアゲハ																					○		○						○										○			
	モンキアゲハ																		○			○	○	○	○	○			○		○	○		○	○	○	○	○				○	○
	クロアゲハ																					○						○	○		○			○									
	オキナワカラスアゲハ																						○						○		○			○	○	○	○					○	○
	アサギマダラ																						○				○		○		○	○	○	○	○	○		○	○		○	○	○
	ツマムラサキマダラ																										○								○			○					
（林床）	リュウキュウヒメジャノメ																			○			○				○		○			○		○	○	○		○				○	○
	ウスイロコノマチョウ																			○																○	○					○	
	ムラサキツバメ																										○			○					○			○		○		○	

（チャバネセセリ～ウラナミシジミについて）マント・ソデ群落にあたる草地・畑地へ入り込む

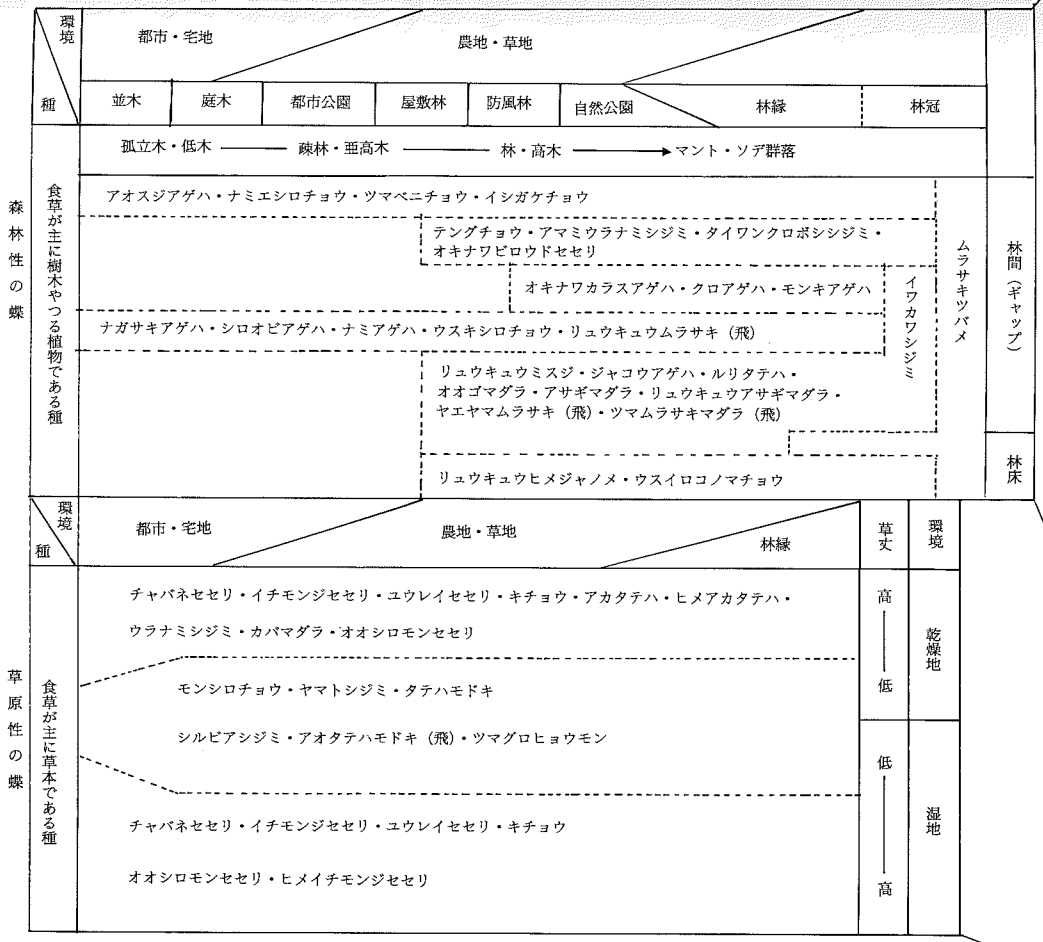
（アオスジアゲハ～ウスイロコノマチョウについて）森の周辺の草地・畑地で訪花および配偶活動等をおこなう

◎　高良・東（1974）には33種、尾本（1979）には23種、長嶺（1987）には24種等の報告がある。
◎　久米島産のリュウキュウヒメジャノメは、基本的に沖縄本島産の特徴をそなえているが、翅表の眼状紋の大きさや裏面中央を縦走する黄白帯の特徴は、これとかなり異なっていることがわかった（高橋、1980）。

◎ 久米島産のリュウキュウヒメジャノメは、基本的に

表10　久米島で記録された蝶（46種）とその生息環境

（飛来）は他より飛来した迷蝶・偶産種　　☆他にスジグロカバマダラ（飛来）の記録がある。



（注）主な食草・食樹は比嘉（1983、1984、1985、1987）および片野茂樹（※私信）から作成。

これまでに記録された種類	主な食草、食樹
アオスジアゲハ	タブノキ、ヤブニッケイなど
ナミエシロチョウ	ツゲモドキ
ツマベニチョウ	ギョボク
イシガケチョウ	ガジュマル、アコウなど
テングチョウ	クワノハエノキ
アマミウラナミシジミ	モクタチバナ、シマイズセンリョウなど
タイワンクロボシシジミ	アカメガシワ、クスノハガシワ
オキナワビロウドセセリ	クロヨナ
オキナワカラスアゲハ	ハマセンダン、カラスザンショウ
クロアゲハ	シークァサー、サルカケミカンなど
モンキアゲハ	ハマセンダン、シークァサーなど
ナガサキアゲハ	シークァサー
シロオビアゲハ	サルカケミカン、シークァサーなど
ナミアゲハ	シークァサー、ヒレザンショウなど
ウスキシロチョウ	ナンバンサイカチ、ハネセンナなど
リュウキュウムラサキ（飛来）	キダチハマグルマ、サツマイモなど
リュウキュウミスジ	クワノハエノキ、イルカンダなど
ジャコウアゲハ	リュウキュウウマノスズクサ
ルリタテハ	オキナワサルトリイバラなど
オオゴマダラ	ホウライカガミ
アサギマダラ	サクララン、ソメモノカズラ
リュウキュウアサギマダラ	ツルモウリンカ
ヤエヤマムラサキ（飛来）	オオイワガネ
ツマムラサキマダラ（飛来）	リュウキュウテイカカズラ※など
ムラサキツバメ	マテバシイ
イワカワシジミ	クチナシ
リュウキュウヒメジャノメ	ススキ、エダウチチヂミザサなど
ウスイロコノマチョウ	ススキ、メイシバなど
タイワンアオバセセリ（飛来）	コウシュンカズラ、モモタマナ
チャバネセセリ	チガヤ、ススキ、イネなど
イチモンジセセリ	ススキ、イネ、チガヤなど
ユウレイセセリ	オガサワラスズメノヒエ、メイシバなど
キチョウ	ハマセンナ、ツノクサネムなど
アカタテハ	カラムシ、ノカラムシなど
ヒメアカタテハ	ヨモギ、ゴボウなど
ウラナミシジミ	ハマササゲ、エンドウなど
カバマダラ	トウワタ
オオシロモンセセリ	ゲットウ、アオノクマタケランなど
モンシロチョウ	カラシナ、キャベツ、イヌガラシなど
ヤマトシジミ	カタバミ
タテハモドキ	イワダレソウ、スズメノトウガラシなど
シルビアシジミ	ヤハズソウ、コメツブウマゴヤシなど
アオタテハモドキ（飛）	ムシクサ、イワダレソウなど
ツマグロヒョウモン	リュウキュウコスミレなど
ヒメイチモンジセセリ	イネ、ススキ

表11　久米島の鱗翅目（蛾）

白瀬一号ダム上流E地点の蛾類（種名、採集日、数）
A（7月14日採集）B（9月24日採集）C（11月5、6日採集）D（12月30日採集）

マダラガイ科

オキナワルリチラシC１

メイガ科

ムツテンノメイガA１、シロモンノメイガA１、ミナミウコンノメイガA１、モンキシロノメイガC１、コウセンポシロノメイガD１、トサカフトメイガA３C１、ワタノメイガA２、シロオビノメイガA１C１、モンキクロノメイガA１、ウスイロキンノメイガA１

カギバガ科

アカウラカギバA３

トガリバ科

モントガリバD１

シャクガ科

オオトビスジエダシャクD２、ヤクシマフトスジエダシャクD４、スカシエダシャクA３D２、クロハグルマエダシャクA１、ヘリグロヒメアオシャクA１、サザナミシロアオシャクA２、リュウキュウナカジロナミシャクC１、リュウキュウフトスジエダシャクD１、アマミシロテンエダシャクD４、ミドリヒメシャクD１、ホソバヒメシャクD１、ウスアカモンナミシャクD３、トビモンオオエダシャクD２、ホシミスジエダシャクD１、

ヤママユガ科

ヤママユB１

スズメガ科

シタベニスズメA１、キイロスズメA１、コスズメA１

ヒトリガ科

モンシロモドキA１D１、ハイイロヒトリA２、アマミキホソバD１

ヒトリモドキガ科

シロスジヒトリモドキA１、キイロヒトリモドキA１D１

ヤガ科

ナタモンアシブトクチバA１D１、ヒメネジロコヤガA２、ツキワクチバA１、ムクゲコノハB１、イチジクキンウワバC１、ソトウスグロアツバD２、メスカバフアツバD１、ヒメサビスジヨトウD１、リュウキュウコリンガC２D２、オオトモエA２、シラホシモクメクチバA６D２、ニセアカマエアツバA５、フタクロオビクチバA１、ハスモンヨトウA１、ヒロオビキシタクチバA２、オキナワオオアカキリバA２、オキナワマエモンヒメクチバA２

スハラ川上流（スハラE）地点の蛾類（種名、採集日、数）
A（3月29日採集）B（11月4日採集）C（12月30日採集）

ハマキガ科

ヒロバクロヒメハマキB１、アシブトヒメハマキB１

ヒゲナガキバガ科

キベリハイイロヒゲナガキバガA１

マダラガ科

オキナワルリチラシＢ１

メイガ科

ミツシロモンノメイガＢ１、マメノメイガＢ１、モモノゴマダラノメイガＢ２、キンスジノメイガＢ１、モンウスグロノメイガＢ１、ムラサキマダラメイガＢ１、クロスジキシマメイガＡ２Ｂ５、フタスジシマメイガＡ３、コヨツメノメイガＡ１、キベリトガリメイガＡ１、カバイロマダラメイガＡ１、トサカフトメイガＢ１、ワタノメイガＢ１、シロオビノメイガＢ１

ギバガ科

アカウラカギバＢ４

トガリバ科

モントガリバＣ１

シャクガ科

キオビエダシャクＡ１、アサヒナオオエダシャクＡ３、オオトビスジエダシャクＡ１、ヤクシマフトスジエダシャクＡ１Ｂ２Ｃ２、ミカンコエダシャクＣ２、スカシエダシャクＢ４Ｃ１、ヨツモンマエジロアオシャクＣ２、ヒメサザナミアオシャクＣ６、アマミアオナミシャクＣ１、アマミシロテンエダシャクＣ９、ウスアカモンナミシャクＣ１、トビモンオオエダシャクＣ２

カレハガ科

クヌギカレハＣ３、マツカレハＡ３Ｃ１

ヒトリガ科

ヒメホシキコケガＡ３、ハガタベニコケガＡ２、ヒトテンアカスジコケガＢ３

ヤガ科

ヤエナミクチバＢ１、ウスオビクチバＢ１、キスジコヤガＢ１、ナカウスツマキリヨトウＢ１、ナカジロシタバＢ１、チャマダラキリガＣ１、クニガミキヨトウＡ１、ヒメサビスジヨトウＡ１Ｂ１、リュウキュウコリンガＡ３Ｃ３、フサハラアツバＡ１、ヒメヒゲブトアツバＡ２、ヤクシマコブヒゲアツバＡ２Ｂ２、タケアツバＡ１、ニセアカマエアツバＣ１、ヒロオビキシタクチバＢ１

以記以下の蛾類の記録

マダラガ科オキナワルリチラシ11．４儀間Ｄ１Ｅ２

シャクガ科カギバアオシャク11．７上江洲ダムＡ〔採１〕

スズメガ科オオスカシバ９．24宇江城Ｂ１、オキナワクロホウジャク11．４儀間Ｆ１Ｉ１、ホシホウジャク11．４儀間Ｉ１、11．７大原Ａ１

シャチホコガ科ホソバネグロシャチホコ３．30白瀬二号Ａ〔採１〕

ヒトリガ科モンシロモドキ３．28白瀬一号Ａ１　３．30白瀬二号Ａ－Ｊ〔採１〕

ヒトリモドキガ科キイロヒトリモドキ11．６白瀬二号Ｂ１　11．７大原Ａ１

ヤガ科オオトモエ　３．30白瀬二号ＣＤＥＩＧ羽Ｂ２　７．13ヤンガーイチＢ２、７．14儀間ＨＩ11．６白瀬中流Ｄ１　11．７大原Ａ１

オオルリビクチバ　７．13ヤンガーイチＢ１

表12　久米島の脈翅目（水生昆虫は除く）、双翅目（水生昆虫は除く）、膜翅目

見つかった種類 ＼ 調査地	草地											林縁（一部は林内）											
	白瀬下流A	浦地川A	大原A	島尻A	宇江城B	仲村渠E	上溝一号A	ヤンガーイチA	儀間I	スハラC	白瀬一号DE	浦地川B	島尻A	山里B	宇江城B	白瀬中流B	上江洲ダムAC	上溝一号AB	ヤンガーイチB	白瀬一号CDE	スハラCE	白瀬二号DE	白瀬二号B
脈翅目																							
オキナワツノトンボ					○			○			○												
カオマダラクサカゲロウ																	○						
ヒメウスバカゲロウ																				○			
双翅目																							
ミナミオオハナアブ	○				○	○		○															
アオメアブ							○	○			○									○			
クロバネツリアブ																		○					
メスアカオオムシヒキアブ															○							○	
オキナワナガハナアブ																							
膜翅目																							
セイヨウミツバチ			○							○													
チビアシナガバチ		○							○														
クロアナバチ							○				○												
オキナワセグロアシナガバチ																		○	○			○	
オキナワクマバチ													○				○				○	○	
ベッコウバチ															○								
ホソウメマツオオアリ																					○		
アメイロアリの一種																						○	
ユミセアリの一種																	○						○
オオズアカアリ（オオズアリ）				○	○					○		○	○		○			○			○		
アシジロヒラフシアリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

高良・東（1974）には、脈翅目３種、双翅目35種、膜翅目28種の記録がある。

表13　久米島の鞘翅目①

調査地 ＼ 見つかった種類	草地・畑地・湿地								林縁												リュウキュウマツを含むイタジイ林内								
	大原A	儀間A	山里B	仲村渠F	上江洲ダムA	上溝一号A	ヤンガーイチA	スハラE	白瀬一号A	儀間HF	仲村渠E	堂崎A	山里B	宇江城B	上江洲ダムA	上溝一号A	ヤンガーイチA	スハラCE	白瀬一号E	白瀬二号A—J	浦地川B	宇江城B	白瀬中流EF	上江洲ダムC	上溝一号B	ヤンガーイチA	スハラAC	スハラEF	白瀬一号DE	白瀬二号BDE
ハンミョウ科																														
コハンミョウ								○																						
ゴミムシ科																														
アトワアオゴミムシ			○																											
ブロンズクビナガゴミムシ				○	○																									
アトモンミズギワゴミムシ					○																									
ヒロアオヘリホソゴミムシ			○																											
ウスアカクロゴモクムシ									○																					
アズマゴモクムシ																		○												
イツホシマメゴモクムシ																		○												
ミドリマメゴモクムシ												○								○										
リュウキュウツヤゴモクムシ													○	○			○	○												
ハラアカモリヒラタゴミムシ															○															
クロヘリアトキリゴミムシ																	○													
ヘリアオアトキリゴミムシ													○						○											
オオアオモリヒラタゴミムシ														○			○	○	○				○				○			
コヨツボシアトキリゴミムシ																		○												
シデムシ科																														
ネパールモンシデムシ																								○			○		○	
オオモモブトシデムシ																													○	
クワガタムシ科																														
オキナワヒラタクワガタ										○	○			○		○	○	○	○	○		○		○	○	○	○	○	○	
オキナワノコギリクワガタ														○		○	○	○	○			○				○	○	○		
ハネカクシ科																														
アオバアリガタハネカクシ		○			○				○																					
コガネムシ科																														
タイワンカブトムシ	○		○			○	○																							
オキナワアオドワガネ			○				○						○	○			○		○											
オキナワムシスジコガネ													○				○		○											
リュウキュウドウガネ													○				○		○											
フチトリアツバコガネ													○						○											
オキナワカンショコガネ													○				○		○											
リュウキュウツヤハナムグリ																○	○	○	○											
オキナワヒメクロコガネ																					○									
オオシマビロウドコガネ																		○	○								○		○	
オキナワシロスジコガネ													○				○		○											
オオシマアオハナムグリ																		○									○			
ケブカコフキコガネ																		○									○			
リュウキュウオオハナムグリ																						○	○		○	○	○	○	○	
オキナワコカブトムシ																									○	○		○		
クメジマカブトムシ																												○	○	
（カブトムシの久米島亜種）																														

今回の記録になく、東・金城（1987）の目録に載っている種類
　コガネムシ科
　　ヒメツヤエンマコガネ
　　スジアシビロウドコガネ
　　オキナワマメコガネ
　　オオシマオオトラフコガネ
　　オキナワコアオハナムグリ

東・金城（1987）による種および亜種の分布域

〔種の分布〕沖縄諸島以南～太平洋地域
〔亜種の分布〕沖縄諸島～与論、沖永良部島
〔亜種の分布〕久米島、沖縄島、慶留間島
〔種の分布〕沖縄諸島、奄美大島、石垣島、西表島、台湾
〔種の分布〕九州以南、琉球列島、台湾、東南アジアなど
〔亜種の分布〕沖縄島、阿嘉島、慶留間島
〔亜種の分布〕沖永良部、与論、沖縄諸島、石垣島
〔亜種の分布〕沖縄島、奄美大島
〔種の分布〕沖縄島、奄美大島、石垣島、西表島
〔種の分布〕久米島、沖縄島～奄美大島、トカラ列島
〔亜種の分布〕沖縄島、渡名喜島、石垣島、西表島、小浜島
〔種の分布〕沖縄島、徳之島
〔亜種の分布〕沖縄島、宮古島、石垣島、西表島
〔亜種の分布〕沖縄島、西表島
〔亜種の分布〕久米島

表14　久米島の鞘翅目②

調査地 ＼ 見つかった種類	草地・畑地					林縁									リュウキュウマツを含むイタジイ林内					
	大原A	浦地川A	儀間I	スハラC	白瀬一号E	浦地川B	堂崎A	宇江城B	白瀬中流D	山里B	上江洲ダムA	ヤンガーイチA	スハラCE	白瀬一号E	白瀬二号A—J	山里B	スハラE	白瀬一号E	白瀬二号C	ヤンガーイチA	上溝一号B
テントウムシ科																					
ニジュウヤホシテントウ	○			○																	
コモンナナホシテントウ		○	○																		
ヒメカメノコテントウ		○	○	○	○																
チャイロテントウ			○																		
ダンダラテントウ			○																		
リュウキュウヒメテントウ			○																		
ジュニマダラテントウ				○									○								
タイワンヒメテントウ				○									○								
キイロテントウ													○								
リュウキュウツヤテントウ									○												
コメツキモドキ科																					
アシグロヒメコメツキモドキ			○																		
タイワンツヤコメツキモドキ								○				○		○							
ケシキスイ科																					
アカマダラケシキスイ										○				○							
カタベニデオキスイ								○					○								
クロハナケシキスイ													○								
モンチビヒラタケシキスイ													○								
カッコウムシ科																					
リュウキュウダンダラカッコウムシ											○										
タマムシ科																					
アヤムネスジタマムシ						○	○														
ジョウカイボン科																					
クメジマツマキジョウカイ															○						
コメツキムシ科																					
オキナワクチブトコメツキ												○									
オオクシヒゲコメツキ										○											
アマミヒゲコメツキ																			○		
オオフタモンウバタマコメツキ																○		○		○	○
ホソクシヒゲムシ科																					
ナガクシヒゲムシ																○		○			
ナガシンクイ科																					
オオナガシンクイ																		○			
ホソカタムシ科																					
クロサワオオホソカタムシ																○	○	○			

今回の記録になく、東・金城（1987）の目録に載っている種類

テントウムシ科
- リュウキュウナガヒメテントウ
- ヒメフタモンクロテントウ
- オオテントウ

コクヌスト科
- コクヌスト

ベニボタル科
- オキナワクシヒゲベニボタル

ホタル科
- オキナワマドボタル(久米島亜種)

コメツキムシ科
- タンチャメクシコメツキ
- スジマダラチビコメツキ

タマムシ科
- エサキクロコメツキ
- アオウバタマムシ(久米島亜種)

◎　1955年5月にはホタル科の
クロイワボタル
オキナワスジボタル
オキナワマドボタル
を採集した。

表15　久米島の鞘翅目

見つかった種類 ＼ 調査地	草地	林縁（一部林冠または村内）											
	浦地川A	大原A	山城A	宇江城B	山里B	上溝一号B	ヤンガーイチA	スハラC	スハラE	白瀬一号C	白瀬一号E	白瀬二号A—J	白瀬二号E
アリモドキ科													
ムネアカアリモドキ	○												
オキナワホソクビアリモドキ		○											
クチキムシ科													
ウスイロクキチムシ							○						
オオクチキムシの一種						○					○		
ハナノミ科													
ナミアカヒメハナノミ			○										
カミキリモドキ科													
タテスジフトカミキリモドキ												○	
ハラグロランプカミキリモドキ												○	
ハイイロカミキリモドキ							○						
ハムシ科													
キイロクロハムシ										○			
キボシツツハムシ					○								
オキナワイチモンジハムシ							○						
タイワンツブノミハムシ		○											○
キイチゴトビハムシ										○			
ヒゲナガゾウムシ科													
イシガキヒゲナガゾウムシ		○											
ゾウムシ科													
サカグチクチブトゾウムシ												○	
ハイイロクチブトゾウムシ				○									
オオカシワクチブトゾウムシ									○				
シイシギゾウムシ								○			○		○
コゲチャツツゾウムシの一種								○			○		

今回の記録になく、東・金城（1987）の目録に載っている種類

ハムシ科

リュウキュウツツハムシ

ニセウスイロサルハムシ

オキナワイモサルハムシ

ヨモギハムシ

ウリハムシ

カミナリハムシ

キスジノミハムシ

キイロミゾアシノミハムシ

ヨツモンタマハムシ

コガタジンガサハムシ

オサゾウムシ科

コクゾウムシ

表16　久米島の鞘翅目④

見つかった種類 ＼ 調査地		リュウキュウマツを含むイタジイ林縁～林内										東・金城（1987）の目録に記されている種および亜種の分布
		浦地川B	宇江城B	上溝一号B	山里B	白瀬二号A—J	ヤンガーイチA	白瀬中流F	スハラE	スハラC	上江洲ダムA	白瀬一号E	
	ゴミムシダマシ科												
分布域が狭い	クメジマキマワリ											○	〔種の分布〕久米島
↑	オキナワユミアシゴミムシダマシ									○	○	○	〔種の分布〕沖縄島
	オキナワクロツヤキマワリ											○	〔亜種の分布〕沖縄島
	ルリムネオオニジゴミムシダマシ							○	○				〔種の分布〕沖縄島、奄美大島
固有種 固有亜種	ハラアカチビキマワリモドキ				○								〔種の分布〕沖縄島、奄美大島、石垣島
	ヒメクロルリゴミムシダマシ						○					○	〔種の分布〕沖縄島、奄美大島、石垣島
	アマミオオニジゴミムシダマシ											○	〔種の分布〕沖縄島、徳之島、奄美大島、トカラ列島
	ニジコマルキマワリ									○			〔種の分布〕沖縄島、奄美大島、宮古島、石垣島、西表島
↓	セスジナガキマワリ	○	○								○		〔亜種の分布〕久米島、沖縄島、奄美大島、宮古島、石垣島、西表島、与那国島
分布域が広い	アカモンキゴミムシダマシ				○								〔亜種の分布〕沖縄島、徳之島、トカラ列島、中国
↑	オオツヤホソゴミムシダマシ								○				〔種の分布〕沖縄島、徳之島、奄美大島、トカラ列島、九州～本州、石垣島、西表島
	ベニモンキノコゴミムシダマシ			○				○			○		〔亜種の分布〕久米島、沖縄島、奄美大島、トカラ列島、対馬、九州～本州、宮古島
	カラカネチビキマワリモドキ						○						〔種の分布〕久米島、沖縄島、南北大東島、奄美大島、トカラ列島、屋久島、九州、宮古島、来間島、多良間島、石垣島、西表島、与那国島
	オオクビカクシゴミムシダマシ				○				○				〔種の分布〕奄美諸島、宮古島、石垣島、西表島、波照間島、与那国島、台湾（目録にはないが沖縄島も含まれる）
	ミナミエグリゴミムシダマシ			○		○			○				〔種の分布〕沖縄島、徳之島、奄美大島、トカラ列島、石垣島、西表島、波照間島、与那国島、台湾、中国、インドシナ
	ナガニジゴミムシダマシ										○		〔種の分布〕沖縄島、奄美大島、トカラ列島、屋久島、種子島、九州～本州、石垣島、西表島、台湾、中国、東南アジア
↓ 広域分布種	アオツヤキノコゴミムシダマシ			○							○		〔種の分布〕沖縄島、奄美大島、トカラ列島、九州～本州、宮古島、来間島、石垣島、西表島、与那国島、台湾、インドシナ、フィリピン
	ハムシダマシ科												
	ヒゲブトハムシダマシ		○				○		○				〔種の分布〕沖縄島、奄美大島、トカラ列島、九州～北海道、八重山諸島、台湾、中国、インドシナ、ネパール

◎　東・金城（1987）の目録には、コクヌストモドキ、リュウキュウスナゴミムシダマシが久米島が分布地として記されている。

表17　久米島の鞘翅目⑤

	調査地 / 見つかった種類	リュウキュウマツを含むイタジイ林縁～林内								東・金城（1987）の目録に記されている種および亜種の分布
		大原A	浦地川B	宇江城B	ヤンガーイチA	スハラC	スハラE	上溝一号A	白瀬二号A～J	白瀬二号C	白瀬一号E	
	カミキリムシ科											
	コウノゴマフカミキリ		○	○			○					〔亜種の分布〕久米島
分布域が狭い	カスリドウボソカミキリ				○			○				〔亜種の分布〕久米島、沖縄島
	コブバネサビカミキリ				○		○					〔亜種の分布〕沖縄島
	クロオビトゲムネカミキリ				○		○					〔亜種の分布〕沖縄島
	アトモンチビカミキリ			○	○		○	○				〔亜種の分布〕沖縄島
	アヤモンチビカミキリ			○	○		○	○		○		〔亜種の分布〕沖縄島
固有種固有亜種	オキナワウスアヤカミキリ			○								〔亜種の分布〕久米島、沖縄島、慶留間島
	オキナワキボシカミキリ	○										〔亜種の分布〕久米島、沖縄島、南大東島
	ノブオケシカミキリ						○					〔亜種の分布〕久米島、沖縄島、南大東島
	オキナワクワカミキリ			○								〔種の分布〕沖縄島、奄美大島
	オオシマヤハズカミキリ			○	○							〔種の分布〕久米島、沖縄島、沖永良部島、徳之島、奄美大島
	オキナワゴマフカミキリ			○								〔亜種の分布〕沖縄島、　徳之島、奄美大島、トカラ列島
	シロスジドウボソカミキリ							○				〔亜種の分布〕久米島、沖縄島、池間島、宮古島、与那国島
分布域が広い	ホソガタヒメカミキリ									○		〔種の分布〕久米島、沖縄島、南大東島、徳之島、奄美大島、石垣島、西表島、波照間島、与那国島
	リュウキュウヒメカミキリ			○	○							〔亜種の分布〕久米島、沖縄島、久場島、奄美諸島、トカラ列島、屋久島、九州～本州
	ヨコヤマヒメカミキリ			○								〔亜種の分布〕沖縄島、沖永良部島、徳之島、奄美大島、トカラ列島、屋久島、対馬、伊豆諸島、大州～本州、石垣島、西表島
	ヤノヤハズカミキリ			○								〔種の分布〕久米島、沖縄島、石垣島、西表島、与那国島、台湾
	フタモンサビカミキリ			○	○		○					〔種の分布〕沖縄島、阿嘉島、宮古島、伊良部島、石垣島、西表島、波照間島、与那国島、台湾
	ヒゲナガヒメカミキリ			○	○	○						〔種の分布〕久米島、沖縄島、南大東島、徳之島、奄美大島、トカラ列島、屋久島、対馬、九州～本州、八重山諸島、台湾
	ベーツヒラタカミキリ				○						○	〔種の分布〕沖縄島、徳之島、奄美大島、トカラ列島、屋久島、伊豆諸島、九州～本州、中国、インドシナ
広域分布種	ヨツスジトラカミキリ				○		○					〔種の分布〕沖縄島、奄美大島、沖永良部島、屋久島、種子島、九州～本州、宮古島、石垣島、西表島、与那国、朝鮮
	ワモンサビカミキリ			○	○		○					〔種の分布〕久米島、沖縄島、慶留間島、南北大東島、奄美諸島、トカラ列島、屋久、種子、九州～本州、八重山諸島、台湾、朝鮮

◎東・金城（1987）の目録には下記の種も久米島に分布する種として上げられている。

ケブトハナカミキリ、ヤエヤマトラカミキリ、ウスイロカノコサビカミキリ、タテスジドウボソカミキリ、ムモンアラゲサビカミキリ、オオキハネナシサビカミキリ、オキナワコブヒゲカミキリ、コゲチャサビカミキリ、モモブトトゲバカミキリ、スジシロカミキリ、堤（1978）には、オキナワハネナシサビカミキリが記録されている。

◎1995年5月にアマミリンゴカミキリ、スジシロカミキリ、オキナワコブヒゲカミキリ、ケブトハナカミキリ、ツシマムナクボカミキリ、アメイロカミキリ、タイワンシラホシサビカミキリなどを採集した。

以上、久米島には37種類のカミキリムシが記録されている。

まれている。

久米島の脈翅目、双翅目、膜翅目（表12）

久米島の鞘翅目①～⑤（表13～17）

高良・東（1974）によって53種類報告されている。今回150種類記録できた。各表を見てどの様な種類が、久米島で記録されたか確認してほしい。

カミキリムシとゴミムシダマシ・ハムシダマシおよびコガネムシの記録を東・金城(1987)の目録を使って分布地と併せた表をつくってみた(表13、16、17)。その結果、久米島だけに生息する種や亜種が見いだされた。他にも、クメジマツマキジョウカイ(固有種)、クメジマボタル（固有種)、オキナワマドボタル（固有亜種)、アオウバタマムシ（固有亜種）などが上げられる。これは、キクザトサワヘビやクメトカゲモドキ、リュウキュウヒダリマキマイマイなどと同様に、久米島で種分化した種類と考えられる。

久米島のクモ類、ゲジ類（表18）

今回採集したものの内、種類の分かったものは、現在46種類である。しかし、扱いの難しい種も多い。久米島のアオグロハシリグモは、沖縄島のものと異なり前肢の先がそれほど白くなく、川から離れた岩や崖、倒木上にいる個体がいた。川の中のヌマエビやサワガニ類以外に、陸上をはい廻するクメジマミナミサワガニや昆虫などを捕食するための適応なのであろうか。

久米島の腹足類（表19）

陸産貝類は、東正雄・東良雄・平田義浩（1992）によってまとめられ、1新亜種の記載を含めて55種類を記録している。久米島の固有種は4種類、固有亜種は1種類存在する。今回陸産貝類は10種類、水産貝類は8種類見つかった。

久米島の甲殻類（表20）

諸喜田・笠井（1984）のリストと今回新たに確認したコテラヒメヌマエビとコツノテナガエビを合わせると、ヌマエビ科は9種類、テナガエビ科は8種類になる。この内、ダム湖上流にまで分布を広げている種類は、トゲナシヌマエビ、オニヌマエビ、コンジンテナガエビの3種であった。これらはいずれも大型の個体であり、集中豪雨時にダムからあふれる水量の増した日などに稀に進入することができた個体の生き残りなのだろう。

コンジンテナガエビとミナミテナガエビが優占しているのは久米島の河川が比較的ゆるやかで、淵や小型の堰が多いためではないだろうか。

サワガニ類の中でクメジマミナミサワガニは様々な水辺環境に進出しており、♀は、流水域だけでなく、ダムや池などの止水域にも稚ガニを放出している。また、若い大型の個体や成体が森の林床をはい廻していることが多く、水辺を離れた陸上での適応が進んでいるように思われた。オキナワコカブトムシやイタジイの実を食べているのを確認した。沖

表18　久米島のクモ類、ゲジ類

見つかった種類 ＼ 調査地	大原A	宇江城B	畑地・草地・湿地											林縁－林内（林間ギャップ）												
			下流域				池・ダム等											河川（中流→上流）								
			白瀬下流A	儀間A	浦地川A	比嘉A	島尻A	山城A	スハラC	スハラEF	上江洲ダムA	上薄一号A	白瀬一号E	白瀬二号E	ヤンガーイチA	大原A	仲村渠E	奥武島A	上薄一号A	白瀬中流CDF	浦地川B	儀間HI	上江洲ダムAC	スハラABC	スハラEF	ヤンガーイチB	白瀬一号EFG	白瀬二号ABC	白瀬二号DEF
クモ目																													
キムラグモ科																													
キムラグモの一種																							○						
トタテグモ科																													
オキナワトタテグモ																							○		○				
ウズグモ科																													
マネキグモ																								○					
ヒメグモ科																													
ギボシヒメグモ																								○			○		○
イソウロウグモの一種※																				○			○	○	○		○	○	
シロカネイソウロウグモ																								○					
チリイソウロウグモ																									○			○	
ヤリグモの一種※																									○				
オナガグモ																○													
オニグモ科																													
コゲチャオニグモ																					○					○	○		
ヤマシロオニグモ																					○				○				
ホシスジオニグモ	○		○	○			○				○			○								○		○				○	○
ヘリジロオニグモ					○																								
オオトリノフンダマシ																													○
チブサトゲグモ															○					○				○	○				
ナガマルコガネグモ		○																											
キジロオヒキグモ																											○		
スズミグモ															○		○					○						○	
ツツゲホウグモ																											○		
ミナミノシマゴミグモ※																○				○			○	○	○		○	○	○
オオジョロウグモ															○		○	○	○	○		○				○	○		○
ジョロウグモ																				○		○	○		○		○	○	○
タニマノドヨウグモ																					○								
オニグモ																					○					○	○	○	

アシナガグモ科																										
オオシロカネグモ																	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ヤサガタアシナガグモ				○	○	○		○	○	○	○	○	○				○	○			○	○		○	○	○
オオアシナガグモ					○																					
シコクアシナガグモ					○	○						○		○												
チュウガタシロカネグモ			○						○														○			
コモリグモ科																										
キクヅキコモリグモ				○		○																				
キシダグモ科																										
イオウイロハシリグモ※								○		○		○														
アオグロハシリグモ※																	○			○	○	○		○	○	○
フクログモ科																										
ヤマトコマチグモ									○	○				○												
ヤマトフクログモ										○																
イタチグモ	○			○																						
アシダカグモ科																										
カマスグモ																	○									
アシダカグモの一種※																	○						○			
カニグモ科																										
ハナグモ			○		○			○																		
トガリシロスジグモ							○		○																	
オキナワアズチグモ					○				○																	
ホシズナワカバグモ	○													○		○		○						○	○	○
イボカニグモ																									○	○
ヤミイロカニグモ																○										
ハエトリグモ科																									○	
ミスジハエトリ																									○	
ウスジロハエトリ																○				○						○
アリグモ																○					○	○				
多足類																										
ゲジ目ゲジ科																										
オオゲジ																	○			○					○	○

※　琉球大学風樹館の佐々木健志さんの助言で下記の様な扱いとする。

アカイソウロウグモ→イソウロウグモの一種

図鑑に掲載されているものと異なるため

シマゴミグモ→ミナミノシマゴミグモ

シマゴミグモには数種がふくされており、従来のものの多くは本種に該当する。

今後、他の種が含まれているかどうか調べる必要がある。

ヤリグモ→ヤリグモの一種、コアシダカグモ→アシダカグモの一種

ヤリグモもコアシダカグモもそれぞれ数種類が含まれており、分類も進んでいない。そのため、種特定ができない。

イオウイロハシリグモ、アオグロハシリグモ

イオウイロハシグモは数種が含まれている可能性がある。アオグロハシリグモはべつの種類である可能性が高い。しかし、これらは従来の扱いで報告する。

表19　久米島の腹足類

	調査地	草地・畑地・湿地									林縁一林内											
		下流域、池、ダムなど									河川ぞい、林床											
	見つかった種類	大原A(石灰岩地)	白瀬下流A	儀間A	浦地川A	比嘉A	島尻A	山城A	ヤンガーイチA	スハラC	ロハラEF	大原A(石灰岩地)	堂崎A	白瀬中流B	白瀬中流D	白瀬中流F	上江洲ダムA	スハラABC	スハラE	スハラF	白瀬一号ABC	白瀬一号DE	白瀬一号FG	白瀬二号AB	白瀬二号CD	白瀬二号EF
	腹足類																								
	原始腹足目																								
	ヤマキサゴ科																								
陸産	ヤセオキナワヤマキサゴ											○													
	アマオブネ科																								
水産	イシマキガイ				○																				
〃	フネアマガイ				○																				
	中腹足目																								
	ヤマタニシ科																								
陸産	アオミオカタニシ														○										
	ミズゴマツボ科																								
水産	オキナワミズゴマツボ		○							○			○	○				○							
	カワザンショウガイ科																								
	ウスイロオカチグサ（陸産）										○			○						○					
	トゲカワニナ科																								
	トウガタカワニナ		○	○	○		○	○		○	○			○	○			○	○						
	カワニナ科																								
	カワニナ							○		○	○					○		○	○	○	○	○	○	○	○
	有肺目																								
	サカマキガイ科																								
	サカマキガイ			○		○		○					○												
	モノアラガイ科																								
	タイワンモノアラガイ			○		○		○	○																
	ヒラマキガイ科																								
	ヒラマキモドキ						○				○			○											
	柄眼目																								
	キセルガイ科																								
陸産	ノミギセル															○					○				
	ツヤギセル																○								
	カサマイマイ科																								
	オオカサマイマイ															○			○		○	○			
	ナンバンマイマイ科																								
	オモロヤマタカマイマイ（固有種）										○														
	シュリマイマイ																			○					
	リュウキュウヒダリマキマイマイ（固有種）																		○		○		○	○	○
	オナジマイマイ科																								
	パンダナマイマイ	○			○						○														
	オキナワウスカワマイマイ	○									○														

◎　東正雄・東良雄・平田義浩（1992）による上記以外の久米島の陸産貝類

フクダゴマオカタニシ、ケハダヤマトガイ、ヒラセアツブタガイ、ミジンヤマタニシ、クメジマゴマガイ（固有種）、リュウキュウゴマガイ、シリコケゴマガイ（固有種）、クビキレガイ、ウスイロヘソカドガイ、ホラアナゴマオカチグサ、ナガケシガイ、ノミガイ、シモチキバサナギガイ、スナガイ、マルナタネガイ、リュウキュウキセルガイモドキ、ニセノミギセル、サカヅキノミギセル、オカチョウジガイ、シリブトオカチョウジガイ、オオオカチョウジガイ、ナメクジの１種、ヤマナメクジ、キイロナメクジ、ナハキビ、コスジキビ、ヒメベッコウガイの１種、ヒラシタラガイ、マルシタラガイ、リュウキュウカドベッコウ、タネガシマヒメベッコウ、オキナワベッコウ、ベッコウマイマイ、ハクサンベッコウ属の１種、クメジママイマイ（固有亜種）、カドマルウロコケマイマイ、イトマンケマイマイ、トウガタホソマイマイ、オナジマイマイ、タママイマイ、ソメワケタワラ、アシヒダナメクジ。久米島には55種類が記録されている。

表20　久米島の甲殻類

諸喜田・笠井(1984)による流程分布の分けかた	流域の位置 河川形態(型)	汽水 Cc		下流 AaBb		→ 上流 Aa						支流 Aa (ダム湖上流)				川→水路→池	ため池 ダム湖			海との連絡のない支流域			
	種名 ＼ 調査地名	白瀬下流A	儀間A	浦地川A	白瀬中流B	浦地川B	山城A	白瀬中流D	スハラC	白瀬中流F	堂崎A	スハラF	上江洲ダムA	白瀬二号CDE	白瀬一号EF	島尻A	ヤンガーイチA	上溝一号A	スハラE	ヤンガーイチB	宇江城B	儀間F	儀間I
	ヌマエビ科																						
中流部群	ナガツノヌマエビ	●	●	●																			
中流部群	ツノナガヌマエビ			●																			
中流部群	ヒメヌマエビ			●																			
中流部群	コテラヒメヌマエビ			●																			
中流部群	ミゾレヌマエビ		●	●	●	●		●	●														
上流部群	オニヌマエビ							●		●	●				●								
上流部群	ヤマトヌマエビ			●				●															
全流域群	サキシマヌマエビ※																						
全流域群	トゲナシヌマエビ			●			●	●	●			●	●	●	●	●			●				
	テナガエビ科																						
感潮域群	フトユビスジエビ※																						
感潮域群	オオテナガエビ	●																					
中流部群	スベスベテナガエビ	●	●	●	●			●			●												
上流部群	コツノテナガエビ								●														
全流域群	ヒラテテナガエビ			●							●												
全流域群	コンジンテナガエビ			●	●	●	●		●					●	●								
全流域群	ミナミテナガエビ		●	●	●	●	●	●		●													
	イワガニ科																						
感潮域群	タイワンヒライソモドキのspA	●																					
感潮域群	ニセモクズガニ	●																					
感潮域群	和名なし (Varuna tomentosa)	●																					
感潮域群	ミナミアシハラガニ	●																					
感潮域群	ヒライソモドキ	●																					
感潮域群	オオベンケイガニ	●																					
感潮－中流域群	ベンケイガニ	●																					
感潮－中流域群	オオヒライソガニ	●	●																				
全流域群	モクズガニ					●		●	●														
	ミナミサワガニ科																						
上流域群	クメジマミナミサワガニ				●		●	●	●	●	●	●	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●
	サワガニ科																						
上流域群	オオサワガニ											●	●	●	●					●			
上流域群	アラモトサワガニ							●	●	●		●	●	●	●								

調査地名	調査日
白瀬下流A	1995.11. 5
儀間A	1995.11. 5
浦地川A	1995.11. 5
白瀬中流B	1995. 9.23
浦地川B	1995. 9.23
山城A	1995.11. 7
白瀬中流D	1995.11. 6
スハラC	1995. 3.29
	1995.11. 4
	1995.11. 5
白瀬中流F	1995.12.30
堂崎A	1995. 9.24
スハラF	1995.12.29
上江洲ダムA	1995.11. 7
白瀬二号CDE	1995. 3.30
	1995.11. 6
	1995.11. 7
白瀬一号EF	1995.11. 5
	1995.12.28
島尻A	1995.12. 4
ヤンガーイチA	1995. 7.13
上溝一号A	1995. 7.12
スハラE	1995. 7.14
ヤンガーイチB	1995. 7.13
宇江城B	1995. 7.13
儀間F	1995. 7.14
儀間I	1995.11. 4

※　諸喜田・笠井（1984）による記録。他にザラテナガエビを記録している。
◎　白瀬下流Aでは他にテッポウエビ科イソテッポウエビとスナガニ科ベニシオマネキ、儀間Aではカイミジンコ科の一種を記録している。
◎　クメジマミナミサワガニは、９月24日採集の♀は、113卵を抱卵、11月７日採集の♀は121稚ガニを抱えていた。
◎　オオサワガニは11月７日採集の♀は98卵を抱卵していた。

表21　久米島の魚類

調査地点	下流（止水的）ゆるやかな流れ				中流型 A	中流型 a	上流型 A	上流型 a	ダム湖上流の支流 A	ダム湖上流の支流 a							ため池 ダム湖		湿地（地下水脈となる）
見つかった種類	白瀬下流A（汽水）	儀間A	浦地川A	比嘉A	山城A（砂防ダム）	浦地川B	白瀬中流B	白瀬中流D	白瀬中流F	堂崎A	スハラAB	スハラCD	スハラF	上江洲ダムABC	白瀬一号AB	白瀬一号EFG	白瀬二号BC	白瀬二号DE	白瀬二号GHI	スハラEF	上江洲ダムA	仲村渠B	上溝一号池A	ヤンガーイチA
ボラ科																								
ボラ	●	●																						
コボラ	●																							
ユゴイ科																								
オオクチユゴイ	●																							
フエダイ科																								
オキフエダイ	●																							
ハゼ科																								
ヒナハゼ	●	●	●																					
ミミズハゼ	●		●																					
インコハゼ	●																							
タネカワハゼ	●																							
チチブモドキ		●																						
テンジクカワアナゴ	●	●	●																					
ナンヨウボウズハゼ			●							●														
シマヨシノボリ			●																					
クロヨシノボリ			●		●	●	●	●			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●			●	
ウナギ科																								
ウナギ		●																						
オオウナギ								●			●			●	●		●	●						
バス科																								
ブルーギル																					●		●	
カワスズメ科																								
モザンビークテラピア		●		●	●																		●	
コイ科																								
ギンブナ																						●	●	
カダヤシ科																								
グッピー			●																	(川の一部まで生息)↓				
ソードテール		●			●		●														●		●	●
タウナギ科																								
タウナギ								●									●						●	

◎　幸地（1984）によると淡水魚の中には他にメダカ、タイワンキンギョ、コイの記録がある。

久米島の魚数の特徴

◎クロヨシノボリとオオウナギの2種類がダム湖上流にまで進入している。

◎1960年代に逸出したとされるソードテールは4河川1ダム2池で確認され、広域に分布している。

◎ヤンガーイチAのクロヨシノボリは、現在この池に生息しているモザンビークテラピアを移入する際に進入したのではないかと思われる。

◎ブルーギルが上江洲ダムAと上溝一号池Aで確認された。これらの水域では、ソードテール以外の魚類(フナやテラピアなど)は未確認に終わった。ブルーギルによる捕食圧がソードテール以外の魚類に及ぼす影響が非常に大きいことが予想される。

◎タウナギの生息が確認できた。池の湿地だけでなく、河川の中流や上流域の淵でも見つかった。「関東地方以南の本州と沖縄県が自然分布の範囲とされるが、生息の確認は少ない。」(日本の淡水魚）とされ、メダカとともに、沖縄のものは、希少個体群としてレッドデータブックに載せられている。また、本種の生息の確認は、沖縄島とのつながりを考える上で重要である。

表22　久米島の両生・ハ虫類

見つかった種類 ○若および成体 ●卵と幼生 ＼ 調査地点		周辺がリュウキュウマツ林およびリュウキュウマツーイタジイ林、イタジイ林																		周辺がリュウキュウマツーイタジイ林およびイタジイ林									
		開けた水域					やや開けた水域 ―イタジイ林縁―							林縁 林内				一部開けた水域 中流		林内を流れる河川 上流（源流） Aa型、Aa－Aao型									
		白瀬下流A	上江洲ダムA	ヤンガーイチA	上溝一号池A	仲村渠A	スハラEF	スハラC(砂防ダム)	スハラD(砂防ダム)	儀間I	白瀬二号B	山城A(砂防ダム)	島尻A	仲村渠E	上溝一号B	宇江城B	儀間F	儀間H	浦地川B	白瀬中流E	嘉崎A	上江洲ダムAC	白瀬一号AB	白瀬一号E	スハラCD	スハラF	スハラAB	白瀬二号DE	白瀬二号GHI	白瀬二号F	ヤンガーイチB
両生類																															
平地の水田池	ヌマガエル											○							○												
大きな池・ダム	ウシガエル		◉	●	◉	◉	◉	●	●					○					○			○									
	ニホンカジカガエル							○		○		○	◉								○	○	○	○							
林縁・池・湿地	ヒメアマガエル						○																								◉
	オキナワアオガエル						◉			○												○		○	○		○				
河川、源流、湿地	リュウキュウアカガエル						◉	◉		○												○	◉	○	◉		◉	○			○
爬虫類																															
平地の河川、池	スッポン				○																										
林縁草地	アオカナヘビ							○	○												○										
	ミナミヤモリ														○		○	○				○	○	○	○		○	○			
林縁－林内	オキナワキノボリトカゲ	○		○			○	○		○				○	○	○				○				○	○			○			
	ヘリグロヒメトカゲ			○										○	○	○		○													
	ガラスヒバァ			○													○														
林縁－林内 河川、湿地	ハブ						○																								
	ヒメハブ						○															○									
林内	クメトカゲモドキ																											○			○
	リュウキュウヤマガメ																											○	○		

◎　爬虫類では、ホウグロヤモリ、バーバートカゲ、オキナワトカゲ、メクラヘビ、アカマタ、リュウキュウアオヘビ、キクザトサワヘビ、ハイの記録が当山（1984）によって報告されている。

◎　スッポンが新たに見つかった。大型の個体であったために標本にできずそのまま放流した。

◎　両生類は6種類確認した。ヌマガエル以外はすべて幼生も確認できた。ウシガエルが多数生息する水域では、ヌマガエルの発見はなかった。ウシガエルの捕食圧がヌマガエルに顕著にあらわれていると思われた。河川性カエルのリュウキュウアカガエルの幼生が、池や砂防ダムでも見つかった。止水域での産卵適応も沖縄島以上に進んでいるのかもしれない。

◎　1995年5月2日にキクザトサワヘビを白瀬川中流の支流域で発見した。また、リュウキュウアオヘビやアカマタなども捕獲した。詳細は次回に報告する。

◎　1995年５月２日にキクザトサワヘビを白瀬川中流の支流域で発見した。また、[illegible]

表23　久米島の鳥類

見つかった場所	調査地	宅地・施設			草地・畑地				草地・林縁（下流、中流、上流、池、ダム）							林縁－林冠－林間（ギャップ）－河川ぞい－林内（リュウキュウマツ林→イタジイ林）																	
		仲泊B	具志川役所	奥武島B	山里A	堂崎B	上溝一号B	仲村渠B	仲村渠F	白瀬中流C	白瀬下流A	儀間A	比嘉A	浦地川AB	白瀬中流CD	堂崎A	上溝一号A	スハラCEF	上江洲ダムA	仲村渠F	大原A	白瀬下流AB	山城A	儀間ABC	仲村渠ABFG	奥武島A	比嘉A	堂崎A	山里AB	宇江城B	儀間DEF	仲村渠CDE	ヤンガーイチAB	浦地川AB	上江洲ダムABC	上溝一号AB	儀間GHIJ	白瀬中流CD	白瀬中流EF	スハラABC	スハラDEF	白瀬一号ABCD	白瀬一号EFG	白瀬二号ABCDE	白瀬二号FGHIJ
宅地	スズメ			○			○																																				
	イソヒヨドリ		○	○	○																																						
	セッカ								○											○																							
草地	ミフウズラ					○																																					
畑地	シメ							○																																			
	アトリ	○																																									
	マヒワ													○																				○									
	リュウキュウツバメ					○	○					○	○				○			○				○			○								○							○		
	キセキレイ													○	○				○																		○	○						
河川	ハクセキレイ													○	○																						○						
	アオサギ												○																														
	コサギ						○					○		○			○							○									○		○									
	ゴイサギ										○			○																														
	カワセミ											○																																
	オオバン																	○																										
	バン												○				○	○																										
池・ダム	リュウキュウヨシゴイ											○					○																										
	カルガモ																○		○																									
	マガモ																	○																										
	コガモ																○	○																										
	ホトトギス																																										
疎林	リュウキュウキジバト																								○					○	○	○									○			
林縁	リュウキュウウグイス																				○		○				○				○	○	○	○	○	○	○		○		○	○	○	○
	シロハラ																				○			○							○		○	○		○	○			○	○	○		○	
	リュウキュウメジロ																							○							○		○	○		○	○			○	○	○			
	リュウキュウヒヨドリ																							○							○		○	○		○	○			○	○	○			
	リュウキュウハシブトガラス																				○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
林冠	リュウキュウサンコウチョウ																					○	○			○					○	○	○	○		○	○			○	○	○			
	サシバ																														○	○	○	○		○	○			○	○	○			
	ツミ																							○							○					○	○					○		○	
	サンショウクイ																																	○											
林内	リュウキュウアカショウビン																																					○					アマミヤマシギ？	
	ヤマシギ																								○							○	○		○				○			↓		
	セレベスコノハズク																												○							○	○				○		○		
	カラスバト																												○			○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

◎　鳥類は、35種類を確認した。沖縄島で見い出されるシジュウカラ、ヤマガラ、サンコウチョウ、ズアカアオバトなどは確認できなかった。また、留鳥の中、久米島で年間見い出されるのは例えば森の中ではキジバト、ウグイス、メジロ、ハシブトガラス、ツミ、セレベスコノハズクの６種にすぎず、夏鳥としてサンコウチョウ、ホトトギス、アカショウビンが、秋から春にかけてサシバやサンショウクイ、ヤマシギ（アマミヤマシギ）、カラスバト、シロハラなどが渡って来るのだろう。水辺の鳥も一部が留鳥であり、多くは冬鳥として渡ってくる可能性が高い。

表24　久米島に欠けている小動物

	―― イタジイ林内、林間（ギャップ） ―― 林　縁 ――		
	―― 源　流 ―― 上　流 ―― 中　流 ――		
河川形態	干上り ―― Aao型 しみ出し状 ―― AaoAa移行型 瀬がはっきりしない ―― Aa型 瀬と淵が明瞭 ―― AaBb移行型 1蛇行区に2回以上瀬と淵をくりかえす		開けた場所（平地）の草地、畑地、湿地での小動物の生息の状況
（止水域）	（一次的たまり）　（たまり）	（たまり状淵）　（崩壊等でせきとめられてできた池）　（増水時にできる遊水池、湿地）	
流水環境で生息する小動物	リュウキュウアカガエル →	ナミエガエル　イシカワガエル　ホルストガエル　ハナサキガエル　⇨ 幼生が台地部中流域まで生息する	止水性カエルはシロアゴガエル以外すべて生息する
	リュウキュウルリモントンボ →	オニヤンマ　リュウキュウトゲオトンボ　リュウキュウハグロトンボ　オキナワコヤマトンボ　カラスヤンマ　オキナワミナミヤンマ　オキナワオジロサナエ　オキナワサナエ	止水性のトンボは飛来種以外すべて生息する。
	トゲエラカゲロウ属の一種　グマガトビケラ、クメセンブリなど →	タイワンシマアメンボ、シロタニガワカゲロウ、ヒメヒラタカゲロウ属の一種　タイワンモンカゲロウ　オキナワヒゲナガカワトビケラなど	
	クメジマミナミサワガニ　オオサワガニ、アラモトサワガニ →	サカモトサワガニ →	
林内および林縁の止水環境に生息する小動物	リュウキュウカトリヤンマ　オオメトンボ →	ヤブヤンマ　オオシオカラトンボ　リュウキュウトンボ　オオハラビロトンボ ―― （湿地）ホソミシオカラトンボ	止水性カメムシ類、止水性甲虫もほぼすべて生息する
	コセアカアメンボ →	オキナワマツモムシ →	
	オキナワアオガエル	リュウキュウオオイチモンジシマゲンゴロウ　イボイモリ・シリケンイモリ → ハロウェルアマガエル	淡水魚はギンブナ、メダカ、タウナギなどが生息する。
河川の周辺で生活する昆虫		オキナワハンミョウ →	
大径木や広い森が必要と思われる小動物また、テリトリー分割のために広い森が必要と思われる小動物	カラスバト　セレベスコノハズクなど	ケナガネズミ、オキナワトゲネズミ、リュウキュウイノシシ、オリイオオコウモリ、ヤンバルテナガコガネ、ノグチゲラ、ヤンバルクイナ、ホントウアカヒゲなど	草地のバッタ類もほぼすべて生息する。
	リュウキュウアカショウビン　ツミなど	オキナワシジュウカラ、リュウキュウサンショウクイ　ズアカアオバトなど	草地、湿地の鳥たちもほとんど生息している。
	久米島に生息している小動物	久米島に生息していない小動物	

縄島中上流域に生息するサカモトサワガニは確認できなかった。

久米島の魚類（表21）

久米島の両性ハ虫類（表22）

久米島の鳥類（表23）

久米島に欠けている小動物（表24）

これまでに見てきたように、久米島は河川環境が存在し、森の周辺には湿地や池が見られるにもかかわらず、そこで生息する小動物の多くが欠けている。これらは、沖縄島では、河川の中上流域に生息する河川性小動物であり、源流や林縁の池や遊水地、湿地で生活する林縁の止水性小動物である。おそらく、久米島は、これらの環境と小動物を一度に失ってしまうという大海進を過去に経験し、その後、再び今日のような流水環境や林縁の池、湿地を取り戻した後もここで生活できる小動物の多くが進入できなかったのではないだろうか。その結果、生き残った少数の小動物が、久米島固有の種や亜種、その他特有の変異をもつに至る種へと変化したのではないだろうか。

源流域と小さな森を残すだけの島が再び、沖縄島とつながり、開けた環境の湿地や草地のほぼ全ての種類と石灰岩地の森や疎林で生活する一部の種類が久米島にたどりついた。久米島は沖縄諸島の他の島々の中で、最も離れた島であったがために、森や河川形態の形成とつながりは、再び陸橋の失われる日まで脆弱であったと思われる。このことが原因で、流水環境と林縁の池、湿地の小動物が欠けてしまったのであろう。稀に進入できた小動物、例えば、ハブでは、久米島特有の模様をもつものがいる一方で、沖縄島のものとほとんど変わらない模様をもつものが同じ久米島にいるように……。クメジママイマイに対し、シュリマイマイが同じ島に生息するように……。前者は交雑し、後者は交雑しなかったとはいえ、同じ種群が二度にわたって久米島に進入したことは否定できないことの様に思える。

また、開けた環境の維持には、今は絶滅していないリュウキュウジカやリュウキュウムカシキョン（失われた生物－沖縄の化石－による）が貢献していたのではないかとも想像している。

報告を終えて

久米島での調査は、これから始まるような気がする。おそらく何度訪れても、興味のつきない島である。しかし、島の自然の改変と変貌はあまりに激しく将来が憂慮される。

最後に、調査、報告書作成にあたって沖縄県立博物館の久貝勝盛さん、嵩原建二さん、西村亜希子さん、沖縄市郷土博物館の比屋根満さん、琉球大学風樹館の佐々木健志さん、ＧＡ・ＳＨＯＷの木村正明さん、植物分類学研究者の中島邦雄さん、千葉県立中央博物館の倉西良一さん、黒住耐二さん、駒井智幸さん、沖縄昆虫同好会の長嶺邦雄さんには、貴重な助言や協力をしていただいた。厚くお礼申し上げる。

また、地図の入手では、仲里村企画開発課の太田喜功さん、具志川村教育委員会の中根聰さんにお世話になった。さらに、沖縄県立教育センターの上門清春さんには、調査、資料作成等で、大変お世話になった。厚くお礼申し上げる。

参考文献

安里進・渡辺賢一　1985　沖縄県のトンボ<安里進トンボコレクション寄贈目録>　名護博物館

朝比奈正二郎　1991　日本産ゴキブリ類　中山書店

東清二・金城政勝　1987　沖縄産昆虫目録　新星図書

石田昇三・石田勝義・小島圭三　杉村光俊　1989　日本産トンボ幼虫・成虫検索図説　東海大学出版会

上野俊一・黒澤良彦・佐藤正孝　1985　原色日本甲虫図鑑（II）　保育社

上野益三編　1986　川村日本淡水生物学　北隆館

大城逸郎　1987　失われた生物—沖縄の化石—　新星図書

大城安弘　1986　琉球列島の鳴き虫類　新報出版

奥谷禎一・伊藤修四郎・日浦勇　1987　原色日本昆虫図鑑（下）　保育社

沖縄県天然記念物調査シリーズ第33集　キクザトサワヘビ生息実態調査報告書［諸喜田茂充、VI白瀬川上流部の底生動物相と現存量］　1993　沖縄県教育委員会

尾本和義　1979　1977年7月上旬の久米島の蝶　琉球の昆虫　№3

神谷厚昭　1984　琉球列島の生いたち　新星図書

川谷禎次編　1992　日本産水生昆虫検索図説　東海大学出版会

環境庁編　1993　日本の絶滅のおそれのある野性生物—レッドデータブック（脊椎動物編　・無脊椎動物編）　財団法人自然環境研究センター

川那部浩哉・水野信彦　1989　日本の淡水魚　山と渓谷社

木崎甲子郎　1985　琉球弧の地質誌　沖縄タイムス社

吉良哲明　1985　原色日本貝類図鑑　保育社

黒沢良彦・久松定成・佐々冶寛之　1985　原色日本甲虫図鑑（III）　保育社

小浜継雄　1978　久米島のトンボ類　琉球の昆虫　№2

小林桂助　1985　原色日本鳥類図鑑　保育社

佐藤文保　1993　本部町の自然の状況とシイ林に生息する小動物について（本部町動植物総合調査）　本部町教育委員会

佐藤文保　1991　企画展「沖縄のトンボ～その将来」　沖縄市郷土博物館

佐藤文保　1994　沖縄市緑地帯の小動物　沖縄市立郷土博物館

白水隆・川副昭人・若林守男　1976　原色日本蝶類図鑑　保育社
高野伸二　1992　フィールドガイド日本の野鳥　財団法人日本野鳥の会
高橋真弓　1980　久米島産リュウキュウヒメジャノメについて琉球の昆虫　No.4
高良鉄夫・東清二　1974　久米島の昆虫相（久米島県立自然公園候補地学調査報告）沖縄県
田中洋　1977　久米島の蝶類　採集・観察報告（1975年7月）　琉球の昆虫　No.1
田中洋　1977　久米島で採集したトンボ類　琉球の昆虫　No.1
千木良芳範　1992　ワクドツキジグモ　Pasilobus bufoninus (SIMON) の久米島から記録　沖縄生物学会誌
堤隆史　1978　久米島のカミキリムシ科　琉球の昆虫　No.2
当山昌直　1984　沖縄群島の両性爬虫類相（III）―渡嘉敷島・久米島―　沖縄県立博物館紀要第10号
当山昌直・太田英利　1986　リュウキュウアカガエルの久米島からの記録　AKAMATA
当山昌直・戸田守　1993　オキナワアオガエルの久米島からの記録　ＡＫＡＭＡＴＡ
友国雅章　1993　日本原色カメムシ図鑑　全国農村教育協会
仲宗根幸男・伊礼美和子　イワガニ科、スナガニ科の特徴と各属及び種の分類検索表（河川域）
長嶺邦雄　1987　久米島の5月の採集報告（1986年）　琉球の昆虫　No.11
日本野鳥研究会　1993　改訂沖縄県の野鳥―写真で見る野鳥図鑑　沖縄出版
日本鞘翅目学会編　1984　日本産カミキリ大図鑑　講談社
日本生物教育会沖縄大会「沖縄の生物」編集委員会編　1984　全国大会記念誌「沖縄の生物」沖縄生物教育研究会［諸喜田茂充・笠井英美　甲殻類、黒住耐二　沖縄の淡水貝類、西島信昇　陸水環境の特徴、幸地良仁　沖縄の淡水魚類、佐久本敏　沖縄島周辺離島の植物など　久米島に関するものあり］
渡部忠重　1984　続原色日本貝類図鑑　保育社
渡部忠重・小管貞男　1982　標準原色図鑑全集３　貝　保育社
日高敏隆他編　1984　蝶分布と系統―日浦勇選集―　蒼樹書房
比嘉正一　1982　久米島の蝶類（1977）　琉球の昆虫　No.6
比嘉正一　1983　沖縄県の蝶類（Ｉ）　アゲハチョウ科　琉球の昆虫　No.7
比嘉正一　1983　沖縄県の蝶類（II）　シロチョウ科　琉球の昆虫　No.8
比嘉正一　1984　沖縄県の蝶類（III）　マダラチョウ科　琉球の昆虫　No.9
比嘉正一　1985　沖縄県の蝶類(IV)　タテハチョウ科・テングチョウ科　琉球の昆虫　No.10
比嘉正一　1987　沖縄県の蝶類（V）　シジミチョウ科（VI）　ジャノメチョウ科（VII）

セセリチョウ科　琉球の昆虫　№11
東正雄　1982　原色日本陸産貝類図鑑　保育社
東正雄・東良雄・平田義浩　1992　久米島の陸産貝類相　日本貝類学雑誌
藤野隆博　1972　日本淡水エビ類の分類と見分け方　Nature Study　18巻
前田憲男・松井正文　1989　日本カエル図鑑　文一総合出版
Masataka SATŌ and Masaaki KIMURA, 1994 Discovery of a New Firefly of the Genus Luciola(Coleoptera Lampyridae) from Kume-jima of the Ryukyu Islands, Elytra.
宮武頼夫・加納康嗣　1992　検索入門　セミ　バッタ　保育社
三宅貞祥　1991　原色日本大型甲殻類図鑑Ⅰ,Ⅱ　保育社
森正人・北山昭　1993　図説日本のゲンゴロウ　文一総合出版
八木沼健夫　1986　原色日本クモ類図鑑　保育社
安松京三・朝比奈正二郎・石原保　1988　原色日本昆虫大図鑑（第三巻）　北隆館
L.LEE GRISMER,HIDETOSHI OTA and SATOSHI TANAKA, 1994 Phylogeny,Classification, and Biogeography of Goniurosaurus Kuroiwae (Squamata:Eublepharidae) from the Ryukyu Archipelago, Japan, with Description of a New Subspecies, ZOOLOGICAL SCIENCE
渡辺賢一・小浜継雄　1986　沖縄のトンボ　沖縄県立博物館